令和６年度日本語指導支援推進校事業

実 践 報 告 集

兵庫県教育委員会

目　　次

※ 各項目をクリックすると、該当ページに移ります。

はじめに

1　本資料について

(1)　日本語指導支援推進校事業について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

(2)　本資料の活用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　日本語指導について

(1)　日本語指導とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

(2)　外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメントＤＬＡ　・・・・・・・・2

(3)　特別の教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

(4)　個別の指導計画（年間指導計画）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

(5)　ＪＳＬカリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

3　各校の実践報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4　ＪＳＬ参照枠（全体）とＤＬＡ（４技能）の評価例・・・・・・・・・・・・・71

はじめに

グローバル化の進展等に伴い、兵庫県には現在、137,044 人（令和６年６月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は 4,239 人、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は 1,644 人（令和６年５月１日現在）であり、年々増加傾向であるとともに、散在化傾向が進んでいます。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成 12 年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

平成 28 年度から、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の３校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語･学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため､「日本語指導支援推進校事業」を実施し、３市（姫路市、芦屋市、三木市）17 校に日本語指導支援員を派遣しています。2019（平成 31）年度からは、県立伊丹北高等学校、県立加古川南高等学校の２校が外国人生徒の特別枠選抜校に加わり、本事業の重要性はますます高まっているといえます。今後も、指導を受けた児童生徒が各教科及びその他の教育活動に日本語で参加し、主体的に学べるように、日本語指導支援員の指導力向上と校内連携の強化をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善、体制の整備を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、令和６年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実に大いに活用されることを期待しています。

令和７年３月

兵庫県教育委員会

１　本資料について

(1)　日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

令和６年度の推進校（姫路市・芦屋市・三木市）の実践を抜粋し、本資料にまとめました。

(2)　本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。

そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメントＤＬＡ」（平成 26 年文部科学省作成）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

※　ＤＬＡについての詳細は、次ページ２(2)「外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメントＤＬＡ」を参照。

２　日本語指導について

(1)　日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

ア　「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

イ　「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてることが必要です。

(2)　外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメントＤＬＡ

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テスト等とは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが一対一で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

<table>
<tr><th>ＤＬＡ
ステージ</th><th>日本語の学習段階</th><th>支援の段階</th><th></th></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="2">・教科内容に関連した内容が理解できる。
・授業に興味をもって参加しようとする。
・読み書きに抵抗感が少ない。
・自律的に学習しようとする態度が見られる。</td><td rowspan="2">【支援付き
自律学習】

必要に応じて支援</td><td rowspan="6">「特別の教育課程」の活用を推奨</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>4</td><td>・日常生活に必要な基本的な日本語がわかり、自ら発話ができる。
・話し言葉を通したクラス活動にある程度参加できる。
・授業を理解して学習するには読み書きにおいて困難が見られる。</td><td rowspan="2">【個別学習支援】

個別的な指導が必要</td></tr>
<tr><td>3</td><td>・単文の理解がむずかしい。
・発話に誤用が多く見られる。
・クラス活動に部分的参加を始める。</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="2">・日本語による意思疎通がむずかしい。
・在籍学級での学習がほぼ不可能である。</td><td rowspan="2">【初期支援】

手厚い指導が必要</td></tr>
<tr><td>1</td></tr>
</table>

(3)　特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

(4)　個別の指導計画（年間指導計画）

児童生徒一人ひとりの実態に応じて「特別の教育課程」を編成し、きめ細かな日本語指導を行うためには、個々の児童生徒の日本語能力や学校生活への適応状況も含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、指導計画を作成することが必要です。

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や単元ごとに設定して、指導の充実に活かしていきます。文部科学省のホームページには、様式が掲載されております。

(5)　ＪＳＬカリキュラム

ＪＳＬ（Japanese as a Second Language）カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

◇　参考

1　海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ
「CLARINET へようこそ」（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet

2　外国につながりのある児童・生徒の学習を支援する情報検索サイト
「かすたねっと」（文部科学省）
https://casta-net.mext.go.jp/

3　子ども多文化共生センターホームページ（兵庫県教育委員会）
http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/

３　各校の実践報告

校　種 教科等 該当ページ

◇ 各枠内の表記内容は、右図の通りです。
◇ 各枠内をクリックすると、該当ページに移ります。
◇ ＤＬＡについての詳細は、
　２(2)「外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメントＤＬＡ」を参照。
※注：ＤＬＡは、日本語での測定と同じ内容・方法で、母語で測定することもできます。

ＤＬＡ＜話す＞の評価結果による分類

ＤＬＡ＜話す＞ステージ		母　語　力　※注						
		1	2		3	4		5	6
日本語能力	6								
	5								
	4				小学校 国語科 P.46	小学校 国語科 P.24	中学校 数学科 P.69	小学校 日本語 P.8	
	3	小学校 国語科 P.62				小学校 国語科 P.17	小学校 算数科 P.57		
	2		小学校 日本語 P.32	小学校 国語科 P.37	小学校 日本語 P.5	小学校 理科 P.14			
	1	小学校 国語科 P.11	小学校 国語科 P.34	小学校 国語科 P.40					

【その他】小学校・国語科 P.20（DLA ステージ１）
小学校・日本語 P.28（DLA ステージ３）
小学校・日本語 P.30（DLA ステージ４）
小学校・日本語 P.43（DLA ステージ２・DLA〈話す〉ステージ２）
小学校・国語科 P.49（DLA ステージ２）
小学校・算数科 P.52（DLA ステージ１）
小学校・国語科 P.55（DLA ステージ３）
小学校・国語科 P.60（DLA ステージ５）
小学校・日本語 P.66（DLA ステージ１）

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・日本語】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 13 日）

日本語能力	ステージ　１
母語力	ステージ　３

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 27 日）

日本語能力	ステージ　２
母語力	ステージ　３

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・７歳
② 国籍及び母語：中国・中国語
③ 来日年齢及び在留期間：６歳・18 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・入学時に来日したため、母国での教科学習経験はない。
・学習の習得のペースはゆっくりであり、理解したり活用したりするのに時間が必要である。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）

〇日本語指導：【文法・語彙】助詞・擬音語・擬態語
【作文】作文例をもとに、作文を書く

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・分からないとき、自信がないときには学習に取り組もうとしないことがあるため、絵などを参考に考えられるようにする。
・経験をもとに正しい語と助詞を使って文で表現できるようにする。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

・絵を手がかりに場面を把握し、正しい助詞や語彙を選べる。
・経験をもとに、丁寧に分かりやすく書く。

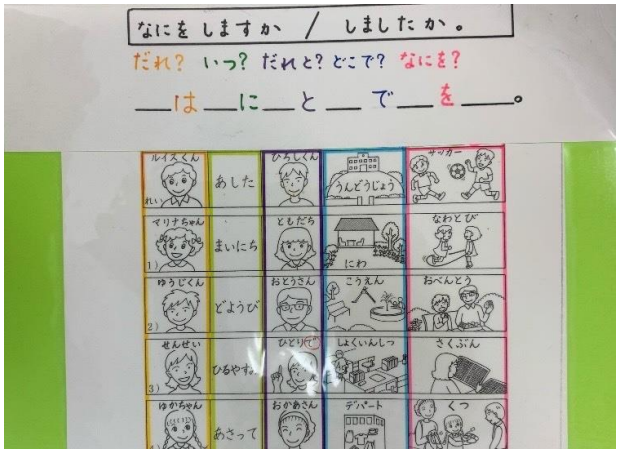
６　指導における工夫点･学習の成果

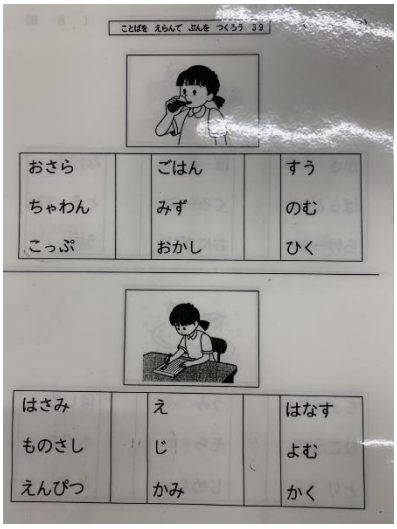
絵を使った教材や身近なことをトピックとして使う。

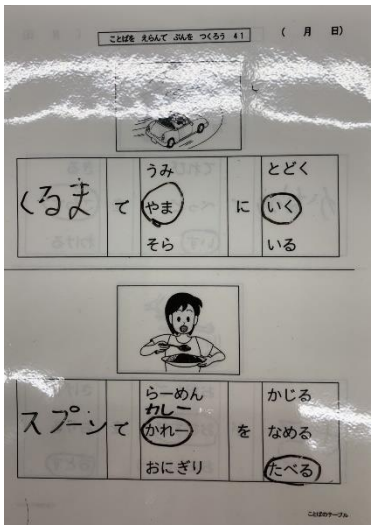
７　教材・教具（開発教材も含む）

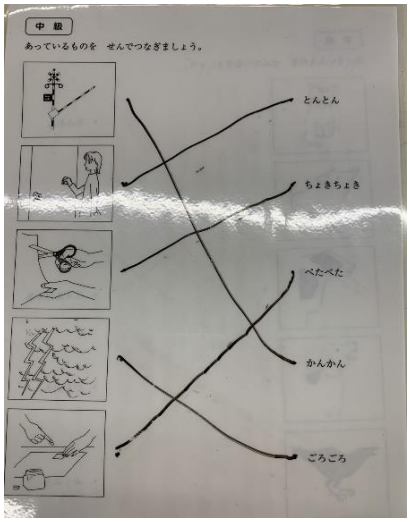
・「ことばの練習帳　副詞－擬音語・擬態語－」（コロロ）
・「ことばのテーブル　語彙選択ワーク」（葛西ことばのテーブル）
・「ゆっくりていねいに学びたい子のための作文ワーク初級２」（喜楽研）

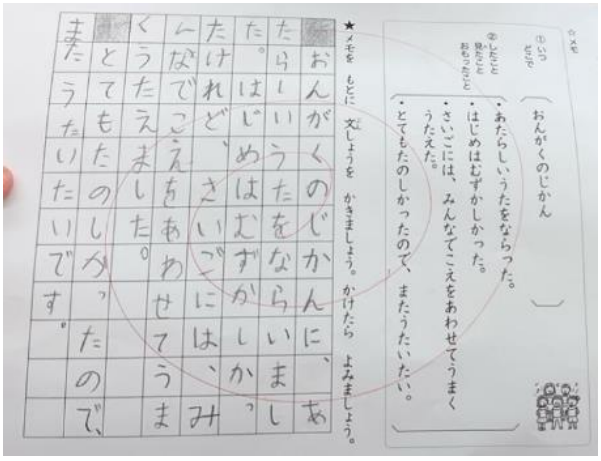
８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）











（別紙）指導案

①目標：【文法・語彙】絵に合う語彙や擬音語・擬態語を正確に理解して使う。
【書く】作文の書き方を学び、自分の伝えたいことを分かりやすく順序立てて書くことができる。

②展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
1　あいさつ、日付、天気、給食の献立について話す。	・毎時間同じ内容を繰り返し練習する。	
2　ショートスピーチで、今日のことを話す。	・「だれが」「いつ」「どこで」「だれと」「何をした」「どうだったか」を意識して話せるようにする。その時の気持ちも伝えられるようにする。	・助詞を正確に使いながら伝えることができる。
3　文型・語彙練習 ・語彙と助詞のワークシート ・擬音語・擬態語のワークシート ・ビンゴ（擬音語・擬態語で学習した語をディクテーションしてビンゴシートを作成する。）	・絵を手がかりに、場面を把握できるようにする。 ・キーワードやキーセンテンス、本文が伝えたいことに気付けるようにする。	
4　作文を書く ・ワークシートの作文例を読み、順序よく分かりやすい書き方を確認する。 ・ＱＡ会話をして伝えたい内容を確認してからワークシートに記入し、伝えたいことをまとめる。 ・メモを参考に作文を書く。	・作文例やＱＡ会話で、作文を書くときに大切なことを丁寧に確認する。	・作文例にそって、分かりやすく順序立てた作文を書いている。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・日本語】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月９日）

日本語能力	ステージ　３
母語力	ステージ　５

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 27 日）

日本語能力	ステージ　４
母語力	ステージ　５

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第４学年・11 歳
② 国籍及び母語：中国・中国語
③ 来日年齢及び在留期間：９歳・18 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・日本では下学年で編入。
・該当学年の教科学習内容は来日前にほぼ習得している。
・学習意欲が高く、基礎的学力も非常に高い。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）

〇日本語指導：技能別日本語
・作文を書こう
・様々な読解文を読もう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

語彙を増やし、正しい文型を整理しながら、伝えたいことを分かりやすく書いたり、正確に速く読み取る練習をする。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

【書く】・語彙を増やしながら整理する。
・ゆっくり丁寧に、段階を追った学習
・分かりやすく順序よく書く練習
【読む】・読解のテーマについて、知っていることや経験を話す。
・質問に対するキーワード・キーセンテンスを意識して読み進める。

６　指導における工夫点･学習の成果

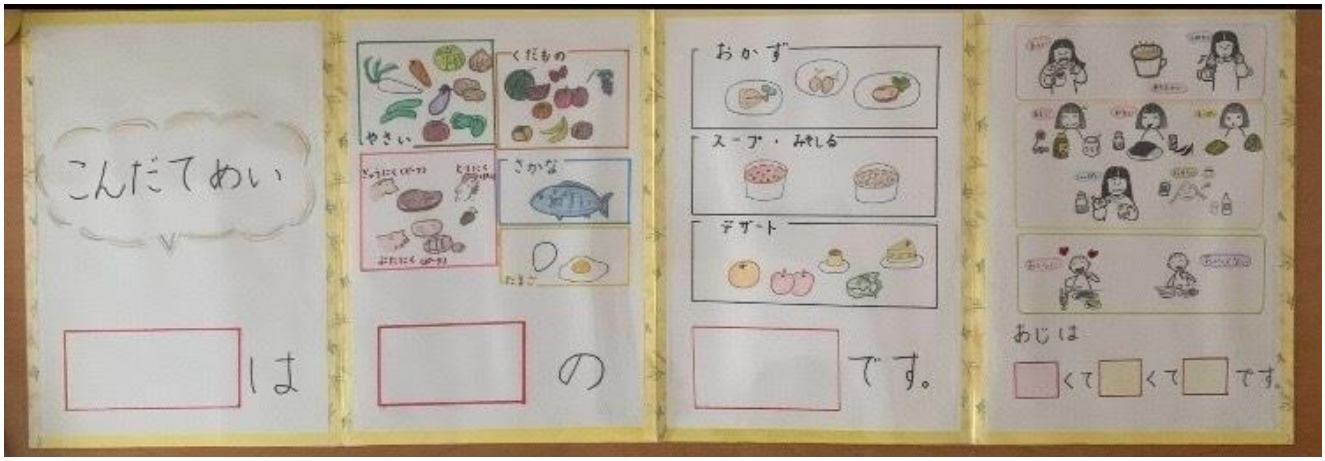
・４技能をバランスよく伸ばせるようにテンポよく進める。
・テーマ（トピック）について自分の考えをもって意見を表現し、話す練習を十分にする。

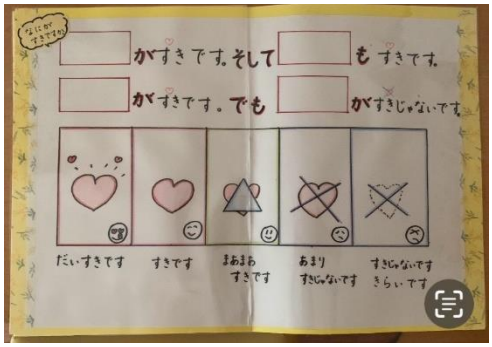
７　教材・教具（開発教材も含む）

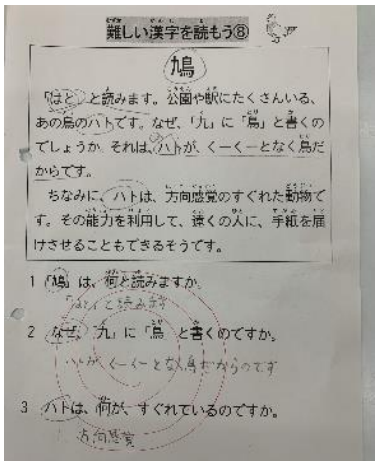
・「ゆっくりていねいに学びたい子のための作文ワーク初級２」（喜楽研）

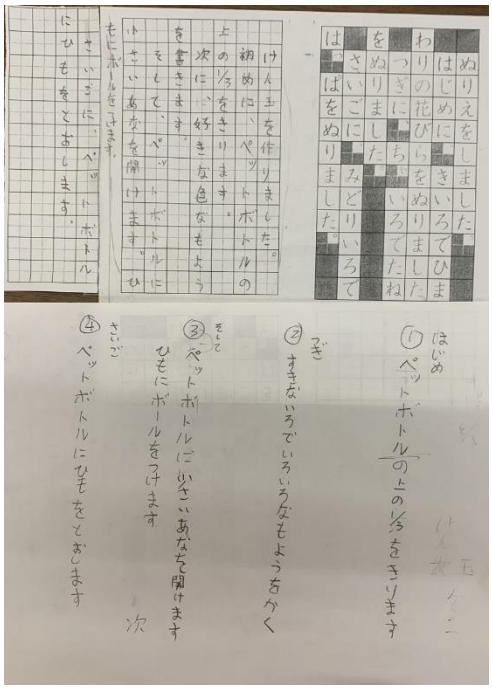
・「ことばのテーブル１００枚プリント　続おはなし読解ワーク中級編」（葛西ことばのテーブル）

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）









（別紙）指導案

①目標：【文法・語彙】助詞、擬音語と擬態語

【書く】作文の書き方を学び、自分の経験をもとに表現したい語句を正確に使い、分かりやすく順序立てて作文を書くことができる。

【読む】・テーマ（トピック）について自分の考えを表現してから、キーワードとキーセンテンスを意識しながら読み進める。

・問いの疑問詞を意識して読み取る。

②展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準
1　あいさつ、日付、天気、給食の献立について話す。		
2　ショートスピーチで、今日のことや週末のことを話す。	・「だれが」「いつ」「どこで」「だれと」「何をした」「どうだったか」を意識して話せるようにする。 ・その時の気持ちを副詞（とても・少し・あまりなど）を使って詳しく表現できるようにする。	
3　文型・語彙練習 ①語彙と助詞のワークシート ②擬音語・擬態語のワークシート ③ビンゴ（②で学習した語をディクテーションしてビンゴシートを作成する。）	・キーワードやキーセンテンス、本文が伝えたいことに気付けるようにする。	
4　読解文を読む。 ・テーマについて知っていることや経験などを、口頭で尋ねたり答えたりする。 ・質問に対するキーワードやキーセンテンスを意識して読み進める。	・自分のことや経験を分かりやすく表現できるようにする。	・問いの疑問詞について正確に読み取り、的確に答えている。
5　作文を書く ①ワークシートの作文例を読み、順序よく分かりやすい書き方を確認する。 ②前回のけん玉作りの経験についてメモを作成する。 ③メモを参考に作文を書く。		・言いたい語を正確に使い、分かりやすく順序立てて作文を書いている。

P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年６月７日）

日本語能力	ステージ１
母語力	ステージ１

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 17 日）

日本語能力	ステージ１
母語力	ステージ１

2　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第１学年・７歳
② 国籍及び母語：スペイン・ポルトガル語
③ 来日年齢及び在留期間：７歳・４ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・母語、日本語（両言語）における語彙力が不足している。
・算数などの基本的な知識はある。

3　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：言葉をあつめよう
※日本語指導：動きの言葉を使ってみよう

4　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
多くの言葉に触れ、言葉の習得に繋げる。

5　指導内容の概要（※別紙参照）
・既習の動詞を確認する。
・動詞の活用を知る。
・活用した動詞を動作化する。
・学習した動詞を使って文を作る。
・作った文を漢字を使って書く。

6　指導における工夫点･学習の成果
語彙はかなり増えてきているが、文章にしたり、それを使ってコミュニケーションを取ったりすることが課題であることから、生活の中で活用できる言葉や文章を中心に学習に取り組んだ。
日本語で授業に参加することが難しく、友だちとも日本語で会話をすることを苦手としていたが、少しずつ自信をもつことができるようになり、授業中に自分から発表したり、友だちに質問したりする姿を見るようになった。また、簡単な絵本も自分で読むことができるようになり、文字を追う力も高まっている。

7　教材・教具（開発教材も含む）

・公文出版社　ひらがなカード
　　カタカナカード
　　反対言葉カード
・ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク１－①（喜楽研）
・絵カード（動物・野菜・果物・動詞）
・多読ライブラリー　レベル０

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

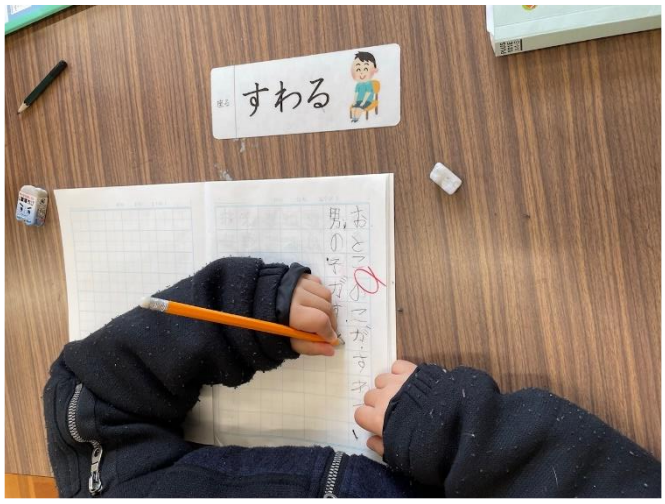


写真１

写真２

写真３

（写真１）動詞の活用をつかって文を作っている様子。
（写真２）友だちと絵のカードと文字のカードを合わせる学習をしている様子。
（写真３）学習で使っている教材。

（別紙）　　１年　学習指導の流れ

①目標：動きを表す言葉を使おう。
②展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準【　】 評価方法（　）
１　本時の学習のめあての確認をする		
２　絵カードを使って動きを表す言葉を知る。	・日本語で理解の難しい言葉は、母語であるスペイン語と対比しながら指導をする。 ・母語で理解が難しい場合は、絵や動画を使って理解させる。	・動きを表すに興味をもって学習に取り組もうとしている。【態】（発言、行動）
３　言葉の活用を知る。	・遊ぶ→遊んだ→遊んでいる→遊びたいなど、様々な動詞の活用の仕方を伝え、発語させることで定着を促す。	・動きを表す言葉の活用の仕方について理解している。【知】（発言）
４　言葉を動作化する。	・言葉を動作化することにより、その様子を想像できるようにする。主語を加え、文として使えるようにする。	・動きを表す言葉の使い方について理解しようとしている。【知】（発言・行動）
５　文を書く。	・不明瞭な発音は何度も繰り返し練習する機会を作る。 ・漢字が使えるところは漢字で書くように促す。	・動きを表す言葉を使って、文を書くことができる。【知】（ワークシート
６　絵本の読み聞かせを聞く。	・日本語能力に合った簡単な内容の絵本を選び、興味をもたせるようにする。 ・読めそうな部分を児童と一緒に読み、読書習慣に繋げる。	・興味をもって絵本の内容を理解しようとしている。【態】（発言）
７　学習をふり返る。		

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・理科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年６月７日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ４

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月21日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ４

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第３学年・９歳
② 国籍及び母語：フィリピン・タガログ語
③ 来日年齢及び在留期間：７歳・22ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
　フィリピンの保育園では英語を使っていたが、教科学習経験はない。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇理科：じしゃくのひみつ（日本語指導：言葉を覚えながら、実験しよう）

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・「じしゃく」「きょく」「引き合う」「しりぞけ合う」などの単元に関する教科用語を知る。
・「あきかん」「わりばし」「輪ゴム」などの身の回りのものの名前を知る。
・３つの実験を通して、磁石の性質について理解する。

５　指導内容の概要
・言葉の意味を繰り返して言う。
・予想を立てて、覚えた語彙を書く。
・実験をして、結果を確かめ、覚えた語彙を言う。

６　指導における工夫点･学習の成果
・物を持ちながら繰り返し、実験用に準備した物の名前を言うことで、視覚的に体験的に、身の回りの物の名前を覚えることができた。
・じしゃくを実際に動かしながら、「引き合う」「しりぞけ合う」を何度も言うことで、じしゃくの働きを理解すると共に、教科学習語彙の意味も理解できた。

７　教材・教具（開発教材も含む）

・かんじだいすき
　AJALT(ASSOCIATION FOR JAPANESE LANGUAGE TEACHING)
・ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワークＩ－②（喜楽研）
・にほんごワーク外国人児童生徒向け無料学習プリント
　（インターネットより）
・「彩と武蔵の学習帳」各教科の内容編＜理科＞

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

写真Ｉ

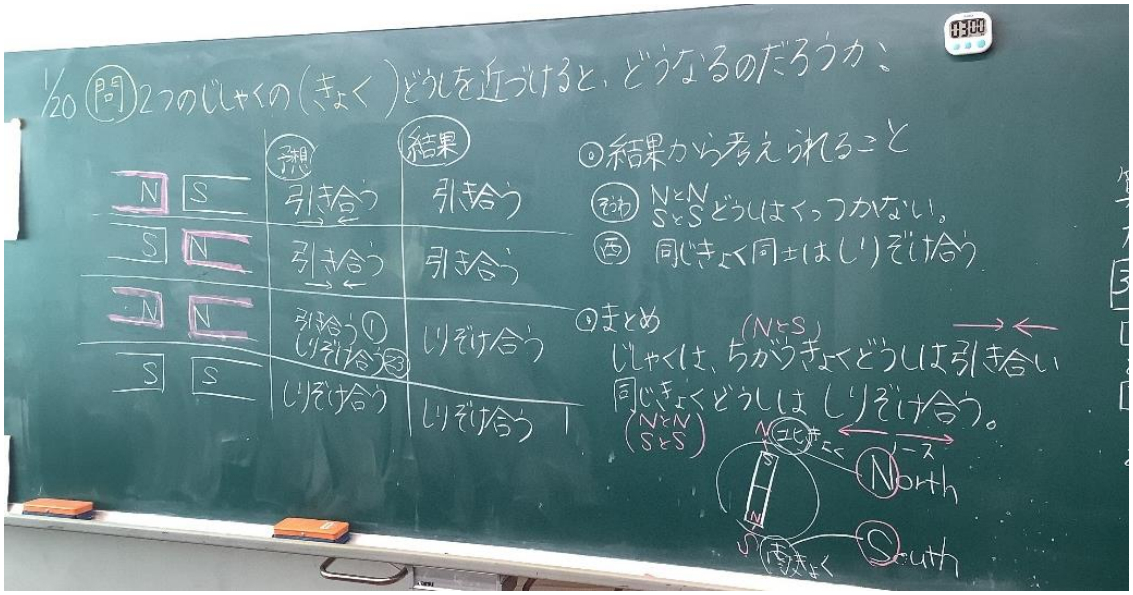


写真２

（写真Ｉ）プリント学習の様子
（写真２）本時の板書

（別紙）　　３年　学習指導の流れ

本時の展開
理科：じしゃくのふしぎ
①目標：学習用語を覚えながら、じしゃくの性質について知る。
②展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準【　】 評価方法（　）
1　前時で学習した言葉のふり返りをする。	・「あきかん」「わりばし」「わごむ」などの前時の実験で使った言葉を言わせる。わからなかった言葉は復唱させ、次回確認をする。	・学習に興味をもって取り組もうとしている。【態】（発言、行動）
2　本時のめあてを確認する。	・磁石とゼムクリップを用意し、最も引き付ける部分を見せ、言葉の意味を復唱させる。「きょく」「Sきょく」「Nきょく」	
２つのじしゃくのきょくどうしを近づけると、どうなるのだろうか。		
3　実験の方法を知り、予想を立てる。	・「引き合う（くっつく）」「しりぞけ合う（くっつかない）」様子を、SNのかいていない磁石を使用して見せ、復唱させる。 ・予想を自分で立てさせ、「引き合う」か「しりぞけ合う」のどちらかを書かせる。	・磁石の極の性質について進んで関わり、問題解決しようとする。【態】（発言、行動）
4　実験する。	・４パターンの実験をさせ、１回１回結果を確認し、「引き合った」「しりぞけ合った」のどちらかを書かせる。	・磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことを理解する。【知】（ワークシート、発言）
5　結果を確認し、まとめる、学習をふり返る。	・「彩と武蔵の学習帳」を使って、学習の内容を確かめさせる。	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年６月７日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ４

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月21日）

日本語能力	ステージ３
母語力	ステージ４

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第４学年・10歳
② 国籍及び母語：フィリピン・タガログ語
③ 来日年齢及び在留期間：８歳・22ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・フィリピン生まれ。
・フィリピンの学校では２年間オンラインだったため、通学経験はなし。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：日記を書こう
※日本語指導：助詞や接続語に気を付けて、日記を書く。

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・助詞や接続詞を正しく使い方を知る。
・伝えたい内容を、日本語で書くことができる。

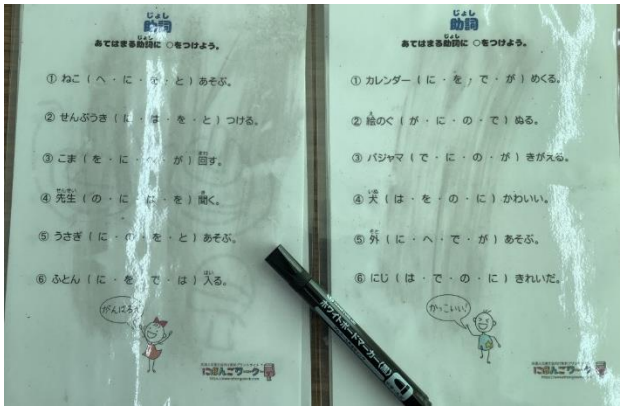
５　指導内容の概要（※別紙参照）
・２年生の漢字の復習
・カードやプリントを使って、助詞や接続詞の使い方を知る。
・日記を書く。

６　指導における工夫点･学習の成果
・日記学習（自分の考えや思いを書く活動）を繰り返し行うことで、どの時にどの助詞を使うかを考えることができるようになってきている。
・最初の頃は書くことに抵抗があり、書く文字も少なかったが、繰り返し書くことで自分が伝えたいことを、誤用はあるものの書くことができるようになった。また、読み手に伝わった時の喜びを感じることができた。

7　教材・教具（開発教材も含む）

・在日外国人児童のための教材（東京外国語大学）
・ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク１－②（喜楽研）
・にほんごワーク外国人児童生徒向け無料学習プリント
　（インターネットより）
・かんじだいすき
　AJALT(ASSOCIATION FOR JAPANESE LANGUAGE TEACHING)

↓自作教材（助詞のプリントをラミネートし、
ペンで書いたり消したりして繰り返し使用できるもの）



8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

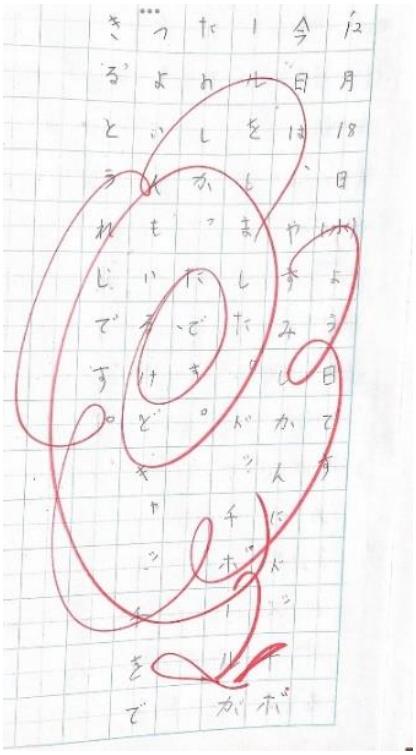


写真１（日記）

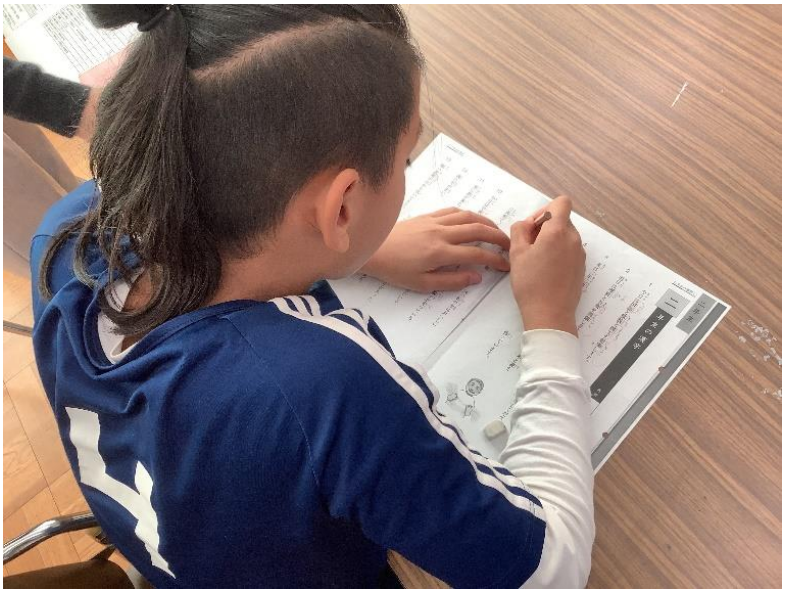


写真２（漢字学習をしている様子）

（別紙）
本時の展開
国語：日記を書こう（４年生）
①目標：助詞や接続語に気を付けて、日記を書く。
②展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準【　】 評価方法（　）
１　本時の学習のめあての確認をする		
２　２年生の漢字の復習をする。	・読めないものがあった漢字を把握し、次回の学習で復習できるようにする。 ・「書く」ことよりも「読む」ことを中心に取り組ませる。	・学習に興味をもって取り組もうとしている。【態】（発言、行動）
３　言葉の学習をする。	・文と文を線で繋がせて、接続語の意味を理解する。 ・選択肢の中から、あてはまる助詞に〇をつけさせる。	・助詞や接続詞を正しく理解している。【知】（プリント）
４　日記を書く。	・書く前に、その日の出来事を話させて、書きたいことを決めさせる。その際に色々と質問し、したことや気持ちを引き出させる。	・出来事を伝える言葉や文を考えようとしている。【態】（発言）
５　学習をふり返る。	・書けた文章を読ませ、接続語や助詞の使い方ができているか確認する。	・助詞や接続詞を正しく使って、文章を書く事ができる。【知】（ノート）

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 23 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	測定なし

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月９日）

日本語能力	ステージ１
母語力	測定なし

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・８歳
② 国籍及び母語：ペルー・ポルトガル語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・100 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・ひらがな、カタカナは読むことができ、簡単な単語なら理解できる。
・文の大意は理解できない。
・音読活動を通して語彙を増やし、文節や単語で区切って読めるように指導している。

３　教科：単元名（日本語指導：教材名）
○国語：「紙コップ花火の作り方」（光村）
※日本語指導：おもちゃの作り方をせつめいしよう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・教師が示すモデルに沿って、平仮名、片仮名、漢字を使い分けて文章を書く。
・文節や意味のまとまりで区切って読む。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

６　指導における工夫点･学習の成果

本教材は、説明的文章で構成されているため外国籍児童にとっては初見では特に理解しづらい文章となっている。そのため、読むだけにとどまらず実際に作業を多く取り入れた。また、二次で書いたおもちゃの説明文は生活科で実際に作っていたおもちゃを取り上げ、思い出しながら文章化する体験を通して日本語の理解を深めた。日本語教室での事前学習の成果があらわれ、交流クラスでも自信をもって学習に臨むことができた。

7　教材・教具（開発教材も含む）

・教科書

・ワークシート

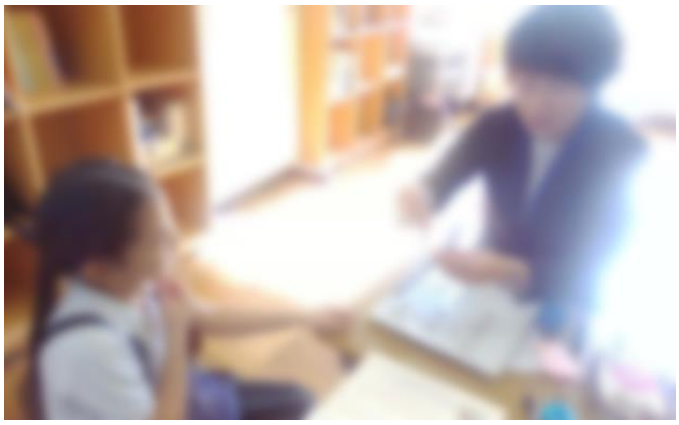
・材料（A４用紙・わりばし・紙コップ）

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

①文章をよく読み、写真を見ながら紙コップ花火を作ってみよう。

（一次２時間目・日本語教室）

本文を少しずつ読み進めることで、大意をつかむことができた。理解できない単語については、動作化をすることで意味をつかませた。また、「切り分ける」等２つの述語が組み合わさってできた言葉については、「切る」「分ける」と、組み合わさる元の単語に分解し一つずつ説明することで理解することができた。本文だけでは理解が難しいところはホワイトボードや絵カードや動作化などを使い、語彙を増やした。



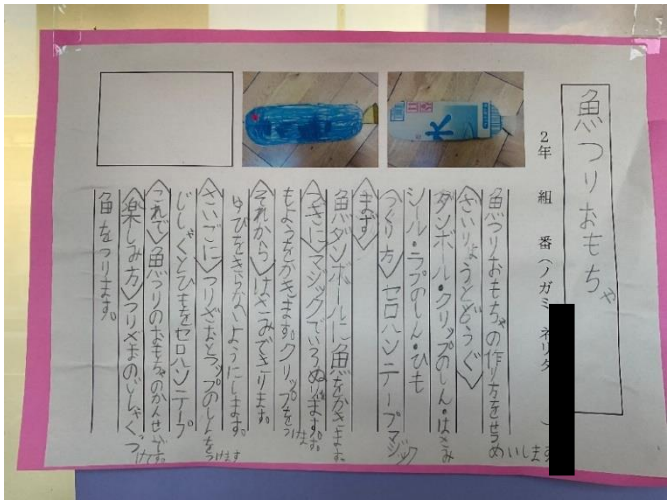
②文章をよく読み、写真を見ながら紙コップ花火を作ってみよう。

（一次３時間目・在籍学級）

事前学習を行ったことで、在籍学級での授業に自信をもって臨むことができた。また日本語教室で本文の意味を理解しながら作った経験を活かし、再度自分ひとりでも作ってみたことは、より深い本文の理解にもつながった。初めて作る在籍学級の友だちとアドバイスをし合い、協力して紙コップ花火を作ることができた。教科書を見て写真や本文を確かめながら、落ち着いて作り上げようとする姿が見られた。

③説明するおもちゃを決め、説明の文章を書こう。（二次５時間目日本語教室）

生活科で作ったおもちゃを日本語教室に持参し、「どうやって作ったの。」「なにで作ったの。」と質問し、作り方をふり返らせながら文章化していった。また、ワークシートを使用し必要な語句を書き入れ、説明文を完成させる活動を通して説明文の型を学ぶことができた。平仮名・片仮名・漢字の使い分けは難しい場面も多々あり、教師のアドバイスをもとに修正しながら書き進めた。児童は完成した説明文の下書きを在籍学級に持ち帰り、清書をすることができた。



（別紙）指導案

単元指導計画（全９時間）

次	時	学習活動	指導・支援の留意点
		単元名　おもちゃの作り方をせつめいしよう	
		ひっしゃの書き方の工夫をみつけよう	
一次	１	・本文を読み、大意をつかもう。（日本語教室）	・理解しにくいことばについては、動作化し意味をつかませる。
	２ ３	・文章をよく読み、写真を見ながら紙コップ花火を作ってみよう。（１回目日本語教室・２回目在籍学級）	・１回目はスマイル教室でじっくりと本文を読み進めながら、作ることで言葉についての理解を図り、交流クラスで再度作ることでより深い理解と自信をもたせる。
	４	・作り方を分かりやすく伝えるために、筆者がしている工夫について考えよう。（日本語教室）	・「まず」「つぎに」「さいごに」など順序を表す言葉、写真を使う工夫、はし・真ん中等場所を書く工夫について気付かせる。
		おもちゃの作り方を説明しよう	
二次	５ ６ ７ ８	・説明するおもちゃを決め、説明の文章を書こう。（日本語教室・在籍学級）	・生活の学習で作ったおもちゃについて書くことでより具体的に考えられるようにする。 ・説明文をかくことの補助となるワークシートを使用させる。
	９	・友だちと読み合おう。（在籍学級）	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 23 日）

日本語能力	ステージ４
母語力	ステージ４

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月９日）

日本語能力	ステージ４
母語力	ステージ４

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第５学年・11 歳
② 国籍及び母語：フィリピン・タガログ語（英語）
③ 来日年齢及び在留期間：１歳・98 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・日常会話は流暢な日本語を話す。
・初めて読む文章もある程度は、単語や文節で区切って読むことができる。
・学年相当の漢字は読めるが、書くことに課題がある。

３　教科：単元名
〇国語：漢字とその意味の習得

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・学年相応の漢字を書けるように習得する。
・漢字で書かれた言葉の意味を習得する。
・文章で表現する際に、既習の漢字を使って書く。

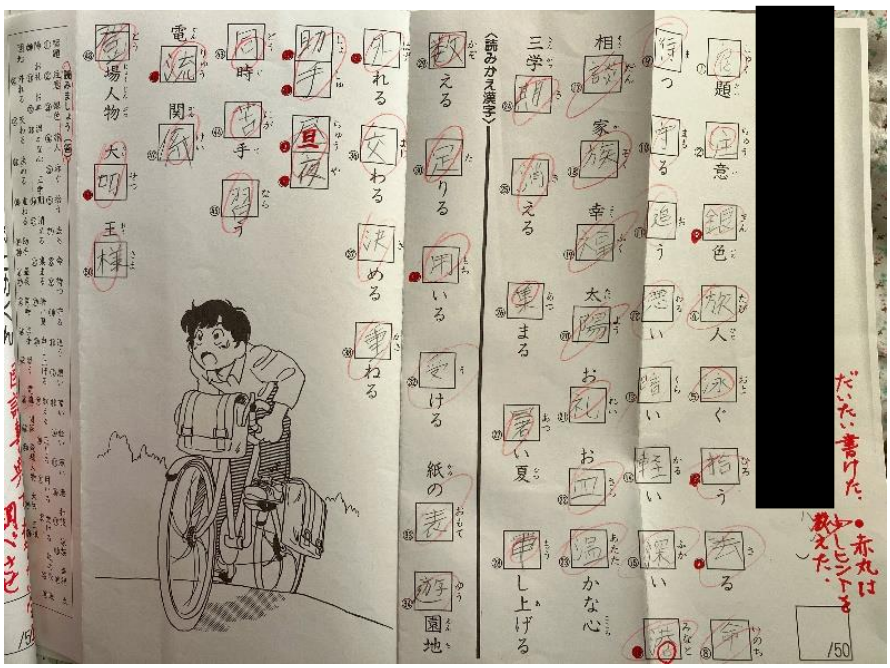
５　指導内容の概要（※別紙参照）

６　指導における工夫点･学習の成果
・テストに出る漢字を予習的に一度学習する機会を設け、それからテストを受けることで、モチベーションが下がらないようにした。
・テストで書けなかった漢字や言葉を集めたプリントを作成し、日本語指導教室でもう一度解き直しをしたり、意味と結び付けて覚えるために言葉を辞書で調べたりした。
・既習漢字を忘れないように単元の学習の前に毎回 ４ 年生までの復習プリントを実施した。
・単元の予習を行う際にも、文章を書くときにはできるだけ既習の漢字を使うように声をかけたりヒントを与えたりして、その都度書くように促した。

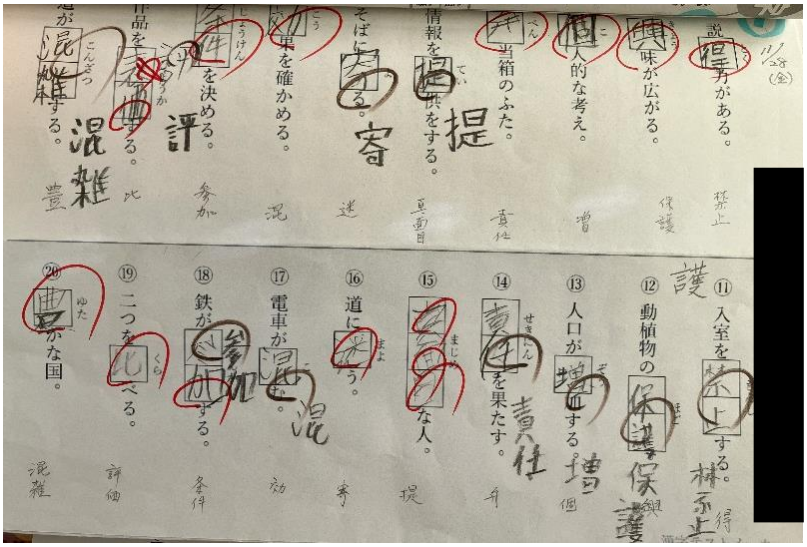
・成果として、漢字を積極的に使う意識をもち、友だちや先生に自分から尋ねながら漢字を使った文が書けるようになってきた。
・漢字テストで自ら目標をもったり、返却を楽しみにしたりして、本人の苦手意識が克服され、漢字習得に対する意欲が高まった。

7　教材・教具（開発教材も含む）
・教科書（光村）
・国語辞典
・自作漢字プリント（漢字テストメーカー使用）
・全学年漢字まとめくん（明治図書）

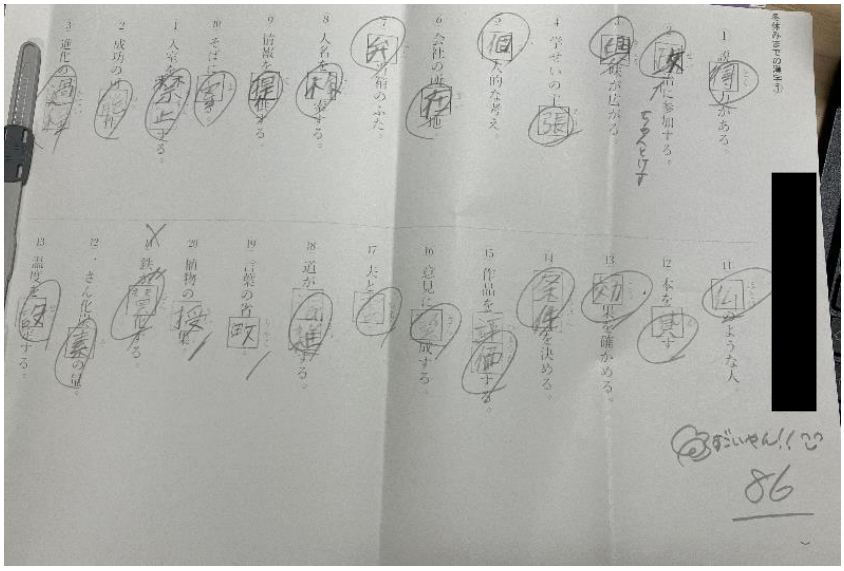
8活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



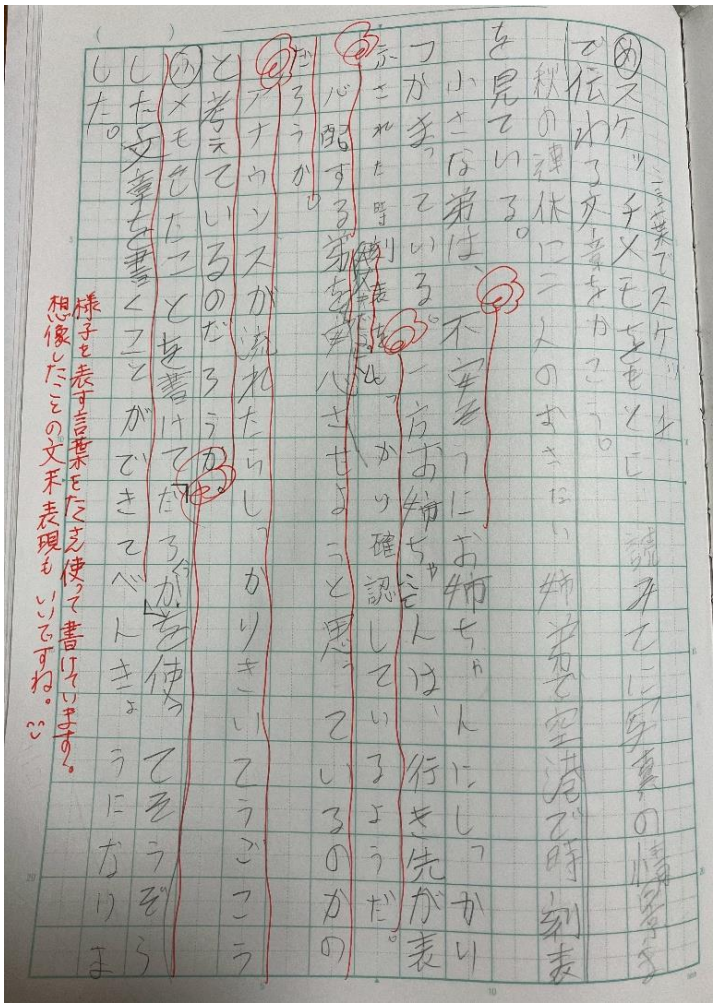
漢字復習プリント



覚えられていない漢字を集めた復習プリント



学年の漢字５０問テスト



一枚の写真を読み手に詳しく文章で伝える学習。
文章に漢字を使う意識をもてるようになってきた。

（別紙）指導の流れ

1　はじめのあいさつをする。

2　学習内容を確認する。

3　漢字復習プリントをする。
　・わからないところは辞書で調べる。
　・答え合わせをして、文章を音読する。

4　教室で行っている学習課題やその先行学習に取り組む。

5　おわりのあいさつをする。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・日本語】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 13 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	測定なし

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 20 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	測定なし

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・７歳
② 国籍及び母語：ペルー・スペイン語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・100 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・ひらがなカタカナを正しく読むことができる。
・２年の漢字の正しい読み書きがほぼできる。
・音読は文節で正しく区切って読むことができ、話の内容や登場人物の気持ちも読み取れる。
・身の回りの物の名前やよく使う動詞、形容詞は覚えている。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇日本語指導：読書記録を書こう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・お話のあらすじを読み取り、相手にわかりやすく話すことができる。
・話したあらすじをカタカナや漢字を使って書くことができる。

５　指導内容の概要
・自分の力で読むことができそうな教材を選ばせる。
・挿絵を見て、話の内容をつかませる。
・お話を音読させる。
・話の登場人物や出来事、あらすじなどについて、対話を通して引き出す。
・話した言葉を思い出させながら、あらすじを書かせる。
・書いた文を読み返し、推敲させる。

6　指導における工夫点･学習の成果

・たくさんの本の中から興味がある教材を選べるので、意欲的に読み進めることができた。

・「誰が出てきた？」「何をした？」「それから？」などと声をかけることで、児童の発語を促し、あらすじに関連する言葉をたくさん集めることができた。

・取り出し指導において、「読む」「話す」「書く」活動に慣れることで、在籍学級での「読む」「話す」「書く」活動へつなぐことができた。

7　教材・教具（開発教材も含む）

・手のひら文庫（ぶんけい）

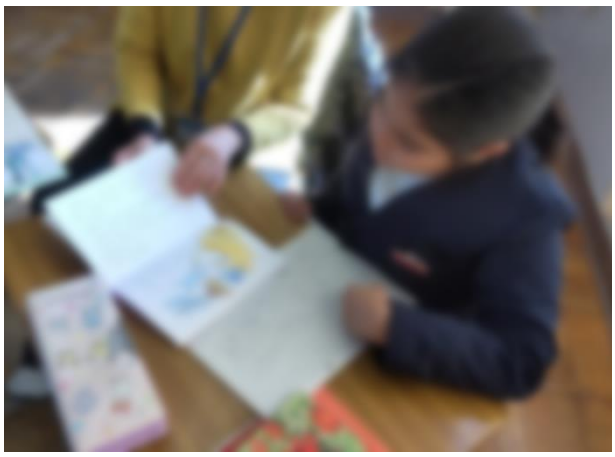
・ノート

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

・たくさんの本の中から、自分の力で読み進めることができる教材を選び、気持ちを込めて読み進めた。

・発語が止まっても、支援員が声をかけると話を思い出し、どんどん話すことができた。

・初めて読む話でも、本を読み返したり、わかりやすくあらすじをまとたりして、楽しく書く姿が見られた。



日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 13 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	測定なし

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 20 日）

日本語能力	ステージ４
母語力	測定なし

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第５学年・10 歳
② 国籍及び母語：パキスタン・パシュトゥ語
③ 来日年齢及び在留期間：５歳・61 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・ひらがなやカタカナの読み書きはできる。
・１、２年の漢字の読み書きがある程度できる。
・音読は、読み仮名があれば、ある程度単語や文節で区切って読める。
・名詞の語彙習得は進んでいる。動詞、形容詞については、使用頻度の高い語彙は習得できている。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：やなせたかし　―アンパンマンの勇気―

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・わからない読みや言葉を尋ね、文節で区切って読むことができる。
・説明文の内容を読み取り、クイズに答えることができる。

５　指導内容の概要（※指導案または指導の流れを別紙にて添付）
・読みや言葉を確認しながら、説明文を音読させる。
・話の内容について、対話を通して引き出す。
・話した言葉を思い出させながら、あらすじを書かせる。
・書いた文を読み返し、推敲させる。

6　指導における工夫点･学習の成果

・アンパンマンについて知っていることを聞いたり挿絵を見て話を推測させたりすることで、児童は本教材に関心をもち、スムーズに導入することができた。

・漢字や言葉の意味を確認したりすることで、理解が深まった。

・クイズを通して、説明文の大意をつかむことで、在籍学級での学習参加へつながり、理解支援につながった。

7　教材・教具（開発教材も含む）

教科書（５年国語　光村図書）

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

・対話を通して、話の内容をどんどん話すことができた。

・わからないことも、次々と質問しながら学習に取り組んでいる。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・日本語】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年１月 19 日）

日本語能力	ステージ１
母語力	ステージ１

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 17 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ２

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・８歳
② 国籍及び母語：シリア・アラビア語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・103 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・支援を得て、単語や文節で区切ってゆっくり音読できる。
・お話の内容や文章問題の意味などの理解は難しい。
・支援を得て、作文や感想が書ける。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇日本語指導：「すきなどうぶつについて書こう」

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
テーマにそった内容を、拗促音を使いながら理由も含めて書くことができる。

５　指導内容の概要（※別紙参照）
・児童と対話しながら内容を引き出し、文を書かせる。
・書いた文章を音読させて推敲する。

６　指導における工夫点･学習の成果
対話をしながら進めることで、児童は書く内容を話すことができた。児童がうまく話せないときに絵を描かせることにより、内容をくみ取ることができ、書くことにつなげることができた。

７　教材・教具（開発教材も含む）
絵カード

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

（別紙）指導案

学習活動	指導上の留意点
1　本時の流れを知る。	・本時の流れを知らせることで、見通しをもたせる。
2　絵カードを見たり並べたりしながら、動物やその特徴を確認する。	・絵カードイメージしにくい場合は、具体物を示しながら確認した。 ・詳しく質問していくことで、書く内容のイメージを膨らませやすくする。
3　話したことを、文章にする。	・苦手な文字は丁寧に指導し、何度か書く機会を設ける。
4　ふりかえりをする。	・書き終えた文章を読ませることで、達成感を味わわせ、書くことへの意欲につなげる。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年　月　日）

日本語能力	ステージ１
母語力	測定なし

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月17日）

日本語能力	ステージ１
母語力	ステージ２

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第１学年・７歳
② 国籍及び母語：レバノン・アラビア語
③ 来日年齢及び在留期間：１歳・84ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
　両親ともにレバノン出身であるため、家庭では母語のアラビア語で話す。日本語は生活言語を少し話せる程度。カタカナは書けるが、ひらがなは難しい。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：ともだちとはなしておはなしをかこう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・絵を見て、誰が何をしているかを話す。
・相手の会話につなげて話す。
・ひらがなとカタカナを正しく書く。
・「」を使って会話文を書く。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

6　指導における工夫点･学習の成果

〇工夫点

・最初に絵を見せながら、「誰が何をしているか」を聞く。

・「何を話しているか」動物になったつもりで児童と会話をする。

・話した内容を作文につなげる。

・「きょう」や「いっしょ」など、書くときに困っている言葉は書き方を丁寧に指導する。

〇成果

・登場人物の様子を「誰が何をしている」と、くわしく話すことができた。

・動物になりきって会話をすることで、楽しくおはなしのイメージを膨らませ、おはなしづくりをすることができた。

・会話文は「」を使うことを理解できた。

7　教材・教具（開発教材も含む）

小学国語「こくご一上」（光村図書）

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

↑登場人物について話す	↑指導者と動物になりきって会話を楽しむ	↑指導者と話して、お話を書く

別紙（学習の流れ）

学習活動	指導上の留意点
1　あいさつをする。 ・めあてを確認する。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的な学びにつなげる。
2　絵を見て登場人物について話す。 ・「誰が何をしているか」 ・何を話しているか	・絵を見て、「誰が何をしているか」自由に話させることで、お話のイメージを膨らませるようにする。 ・「何をしているか」「どんな話をしているか」など、詳しく聞きとり、登場人物の動物になりきって会話をし、楽しい雰囲気でお話づくりができるようにする。 ・指導者の話を聞いて会話をつなげられるように、わかりやすい日本語で話す。
3　話したことを文章にする。 ・地の文と会話文を区別する。	・話したことを文字にすることが難しい場合は、書き方を丁寧に指導する。 ・一文ごとに書き方が正しいか、確認しながら進める。 ・会話文は「」を使うことや改行することを確認する。 ・最後につくったお話を読ませ、お話を書くことができた喜びを味わわせる。
4　ふりかえりをする。	・できたことを褒め、学ぶ意欲につなげる。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年１月 19 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ２

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 17 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ２

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・８歳
② 国籍及び母語：シリア・アラビア語
③ 来日年齢及び在留期間：６歳・20 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
　学習はまじめに取り組んでいるため、少しずつではあるが日本語の読み書きの力もついてきている。家庭では母語のアラビア語を話す。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：お話のさくしゃになろう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・ひらがなやカタカナを正しく書く。
・話を作るときに、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」など詳しく書く。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

６　指導における工夫点･学習の成果
◎工夫点
・児童との会話を通して人物やできごとの設定を明確にしてから書かせる。
・児童が発した言葉を正確に書くことができるようにする。
・助詞の「を」や「は」を確かめながら書くようにする。
・会話文を取り入れ、物語をよりリアリティのある文にする。
◎成果
・人物やできごとの設定を考える際、児童は教員との会話を通してよりイメージを膨らませることができた。また、挿絵の周りに児童が発した言葉を書くことでイメージしやすいようにした。
・ひらがな表やカタカナ表で確認しながら書くことができた。
・児童にとって難しい、拗音を含む言葉の表し方を復習することができた。
・くっつきの音を言葉と結びつけながら書くことができた。

７　教材・教具（開発教材も含む）

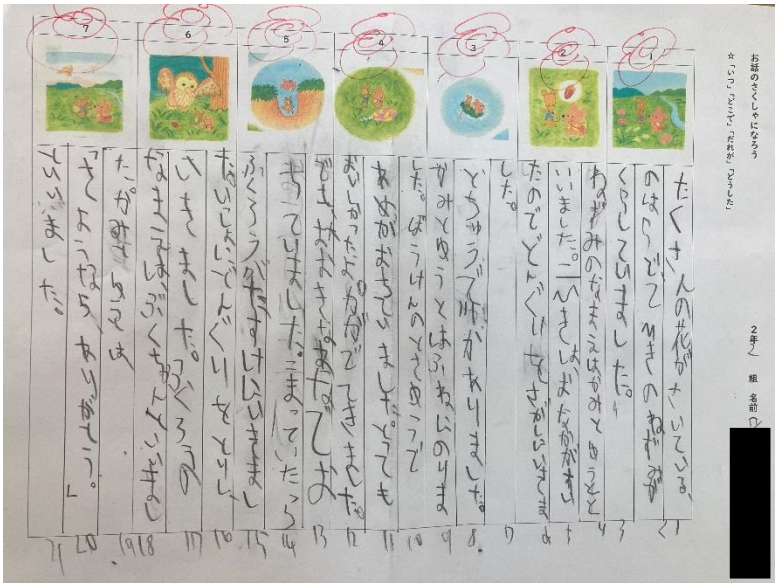
・小学国語「こくご二下」（光村図書）

・話の「画像」を添付したワークシート

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

物語をイメージする

物語を書いていく



お話のさくしゃになろう

☆「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」

2年[redacted]　組　名前[redacted]

たくさんの花がさいている。
のはらでみきのねがぐ
くらしています。
わかばみのなまえはかみとうとと
いいました。ぺきしおとなかます
たのでどんぐりをさがしにいきま
した。
どちゅうで昼がありました。
かみとうとはふねにのりま
した。ばうけんのそうでう
ねがおちていました。そうでも
おいしかったよかがでてきました。
でも、ねずきなまだでお
きていました。まっていたら
ふくろうがたすけにいきました。
ねいこんでんぐりをとりに
いきました。つぐろうの
なまえはぶくちゃんいます。
たがみさんは
「さようなら、ありがとう。」
といいました。

完成したお話

別紙（学習の流れ）

学　習　活　動	指導上の留意点
1　あいさつをする。 ・めあてを確認する。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2　絵から想像したことを話す。 ・登場人物について ・できごとについて	・二匹のねずみについて、名前やどんな人物かを話し、イメージを膨らませやすくする。 ・絵を見ながら、どのようなできごとがおこったかを話し、できごとについて教員が詳しく聞き取ることで、物語をより楽しくイメージできるようにする。
3　話したことを文章にする。	・話した音と書く音が一致するように確認したり、話したことを整理したりしながら、書かせる。 ・助詞の「を」や「は」を正しく書けるように、言葉＋「助詞の音」を意識させる。 ・数え方を意識して書かせる。 ・会話文を考えさせ、楽しんで物語を書けるようにする。 ・巻末の「言葉の宝箱」を見て、考えや気持ちをつたえることばを選び、より詳しく文章を書けるようにする。 ・最後につくったお話を読ませ、お話の作者になったよろこびを味わわせ、次への意欲を高めさせる。
4　ふり返りとあいさつ。	・ふり返りをすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年１月 19 日）

日本語能力	ステージ１
母語力	ステージ２

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 17 日）

日本語能力	ステージ１
母語力	ステージ２

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第３学年・９歳
② 国籍及び母語：ペルー・スペイン語
③ 来日年齢及び在留期間：６歳・27 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・来日して、２年以上経つ。簡単な生活言語にジェスチャーを交えて話す。
・平仮名を聞き取って書くことも難しく、カタカナも定着していない。
・学習中は集中力が持続しない。家庭では母語のスペイン語を話す。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：書くときに使おう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・絵を見て、だれが何をしているか話す。
・ひらがなやカタカナを正しく書く。
・物語の基本的な組み立てを知る。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

6　指導における工夫点･学習の成果

◎工夫点

・四枚の絵をカードにすることで、順番の先入観をなくして自由に物語をつくれるようにした。

・主語と述語を明確にするだけでなく、登場人物や背景について質問しながら想像力をふくらませられるようにした。

◎成果

・四枚のカードを並べ替えながら、様々なパターンの話を考え、話すことができた。

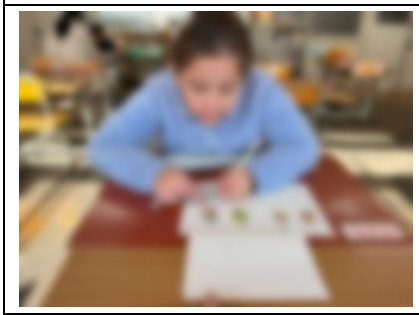
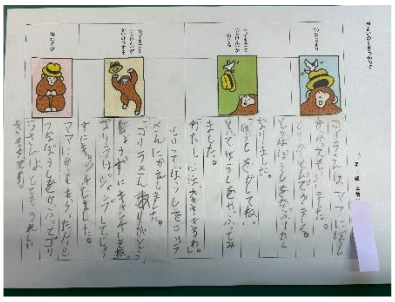
・会話文を取り入れて、イメージを膨らませながら書いた。

・書き取りが難しい言葉は教員の発音を聞きながら書いたり、教員の書いた文字を見ながら書いたりした。

7　教材・教具（開発教材も含む）

小学国語「こくご三下」（光村図書）

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

↑カードを動かして想像したことを話す。	↑並べた順番に沿って、教員の質問に答えながら、詳しく話す。	↑ワークシートに場面ごとにカードを貼る。
		
↑わからない日本語を見て書く。	↑完成した物語を読み、達成感を味わう。	↑完成した物語。（ワークシート）

別紙（学習の流れ）

学習活動	指導上の留意点
1　本時の流れを知る。	・本時の流れを知らせることで、見通しをもたせる。
2　絵カードを見たり並べたりしながら、物語を話す。	・四枚の絵カードを自由に動かしながら話をさせて、楽しく物語を考えさせたり物語の順序を考えさせたりする。 ・登場人物や背景について詳しく質問することで、物語のイメージを膨らませやすくする。
3　話したことを、文章にする。	・会話文を取り入れることで、よりリアリティのある文章になるようにする。 ・苦手な文字を丁寧に指導し、何度か書く機会を設ける。
4　ふりかえりをする。	・読ませることで、達成感を味わわせ、書くことへの意欲につなげる。

1　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年１月 20 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ２

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 17 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ２

2　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第４学年・10 歳
② 国籍及び母語：シリア・アラビア語
③ 来日年齢及び在留期間：３歳・73 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力

ひらがなは定着してきているが、カタカナはスムーズに読むことができない。漢字は低学年のものでも読めないものが多い。教科書の文章をすらすらと読むことは難しい。

3　教科：単元名　（日本語指導：教材名）

〇日本語指導：絵本をよもう、漢字を覚えよう

4　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・物語に親しみをもたせる。
・物語を読む練習をさせる。
・漢字を学習させる。

5　指導内容の概要（※別紙参照）

・児童が読みたい絵本を選ぶ。
・表紙や挿絵から絵本の登場人物を確認する。
・お話を教員と児童が交代しながら読む。
・漢字カードを使って、漢字を確認しながら読む。
・漢字プリントで、漢字の読みを確認しながら書く練習を行う。

6　指導における工夫点･学習の成果

児童が自分で読みながら話を理解できるように、文章やページを読むごとに、挿絵を使って登場人物の確認や物事の確認を行った。単語の中でも何度も出てくる物は、カタカナであっても、ページを進むごとにまとまりで読めるようになった。分かりにくい日本語は平易な日本語にして説明した。
漢字の学習は、１年生で学習する漢字カードを確認し、その漢字がでてくる漢字プリントを読み書きすることで定着をはかった。

7　教材・教具（開発教材も含む）

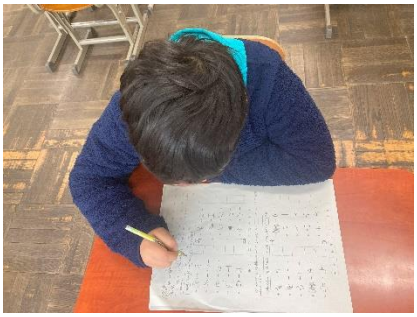
・「はなさかじいさん」　文絵　いもとようこ

・漢字カード

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

「はなさかじいさん」の本は、数ある本の中から本人が気に入って選んだものであった。本人がアラビア語で書かれた物を読んだことがあったというのもあり、話の内容を理解しやすく、話や絵に興味をもちながら音読に取り組むことができた。また、オオカミと子豚の役割を教員と分担するなどし、何度も出てくる言葉はカタカナや漢字を含めたものでもスラスラと読めるようになっていった。

漢字は、1年生の漢字カードを練習した。森など、絵本の中に出てくるカードを中心に10枚ほどのカードの束を繰り返し読む練習をすることで、ほぼ読めるようになった。また、カードで学習した漢字も使われているプリントに取り組んだ。



（別紙）学習の流れ

学　習　活　動	指導上の留意点
1　あいさつをする。 ・学習の流れを知る。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2　「はなさかじいさん」を音読する。	・ゆっくりとでも、本人が自分で読みながら話を理解できるように、登場人物の確認や場面の説明を加えた。 ・役割や場面で交代しながら、繰り返し練習する。
・わからない言葉や漢字を確認する。	・分からない言葉は分かりやすい日本語に直したり、身近な例えをだしたりして確認する。
3　漢字カードで漢字の確認。	・漢字は読み方と意味を説明。何度も繰り返し確認して定着をはかった。
4　漢字プリントをする。	・形がくずれないように、ゆっくりとなぞり書きをさせる。
5　ふりかえりをして、あいさつをする。	・ふりかえりをすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年１月 20 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	ステージ３

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 17 日）

日本語能力	ステージ４
母語力	ステージ３

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第６学年・11 歳
② 国籍及び母語：シリア・アラビア語
③ 来日年齢及び在留期間：２歳・105 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力

聞く、話すことに関しては、日常生活を行う上で問題ない程度の力はあるが、読み書きの力は伸び悩んでいる。低学年の漢字を学習しながら文章問題にも取り組んでいるが、内容を理解できていないことがある。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）

〇国語：漢字の広場

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・漢字を学習させる。
・語彙を確認しながら、絵を見てお話を考えさせる。
・「けれども」「それから」などの接続詞を使って文章を書く。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

６　指導における工夫点･学習の成果

教材に出てくる２年生の漢字は、漢字カードを使って絵と共に確認をした。毎日の宿題で学習していた漢字もあったため、よく理解していた。忘れていた漢字についてはノートで練習することで、定着をはかった。

お話を作る際は、登場人物や状況を事前に確認しておくことで、物語の展開の見通しをもって書くことができた。接続詞を使って文章を作っていくことは難しかったようだが、使い方を確認しながら文章の中に取り入れて書くことができた。

7　教材・教具（開発教材も含む）

・漢字カード　　・漢字ノート

・作文プリント

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

漢字の学習は、これまで宿題で出していた２年生で習う漢字を中心に行うと、ほとんどを理解して読むことでできていた。わからない、忘れた漢字はタブレットで調べ、漢字ノートに正しく書くことができた。

お話の創作活動は、はじめに言葉や状況を簡単に確認したことで、スムーズに書き始めることができた。主人公が宝物を探す旅に出る話を積極的に考えて書くことができ、本人も楽しみながら書くことができていた。

漢字カードで確認	お話を創る様子
	↑

別紙（学習の流れ）

学習活動	指導上の留意点
1　あいさつをする。 ・学習の流れを知る。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2　漢字カードで確認をする。	・わからない漢字があれば、タブレットや教科書でも確認し、漢字ノートに書かせることで定着をはかる。
3　お話を書く前に内容を確認する。	・登場人物の確認。 ・絵の中に出てくる物や場所を確認することで、お話の見通しをもつ。 ・接続詞を使うように声をかけながら、一緒に使う場所や使い方の確認をする。
4　完成したお話を読む。	・お話を教員に読み、教員からの感想を聞くことで、自分の作ったお話に自信をもち、創作意欲を高める。
5　ふりかえりをして、あいさつをする。	・ふりかえりをすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 12 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	測定なし

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 11 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	測定なし

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・８歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・86 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力

日常会話はできるが、全体での指示は理解できないことがあったり、集中が持続しにくかったりする面もあり、個別に指示や説明をしている。学習においては、復習や反復練習など家庭でも熱心に学習し、ひらがなやカタカナ、漢字などの文字や、たし算や引き算、かけ算など基本的な計算の習得が進み、学習にも意欲的に取り組む姿が見られるようになっている。一方、まだ、知っている語彙が少なく、文字を言葉として捉えて理解することも難しい面があり、物語文や説明文、文章題などの理解や文章を書くことについては、引き続き個別に支援を行っている。

３　教科：単元名　　（日本語指導：教材名）
〇国語：お話のさくしゃになろう

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
・自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

５　指導内容の概要（※別紙参照）

６　指導における工夫点・学習の成果

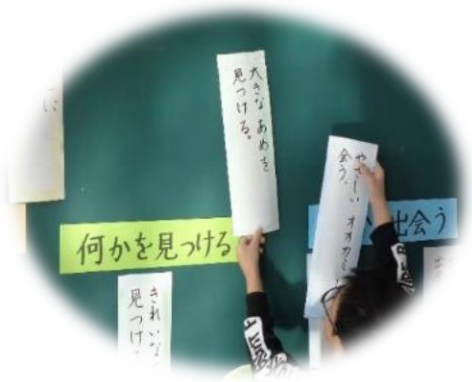
・挿絵やキーワードを提示し、出来事を考える手立てとする。
・個人で考える前に、全体で自由に出来事を考えたり、考えた出来事を話がつながるように並びかえたりして、個人で考える際のモデルとする。
・登場人物の人物像や物の特徴や様子を表す言葉などを集めた「語彙カード」を活用させ、いろいろな表現に触れることができるようにする。

7　教材・教具（開発教材も含む）

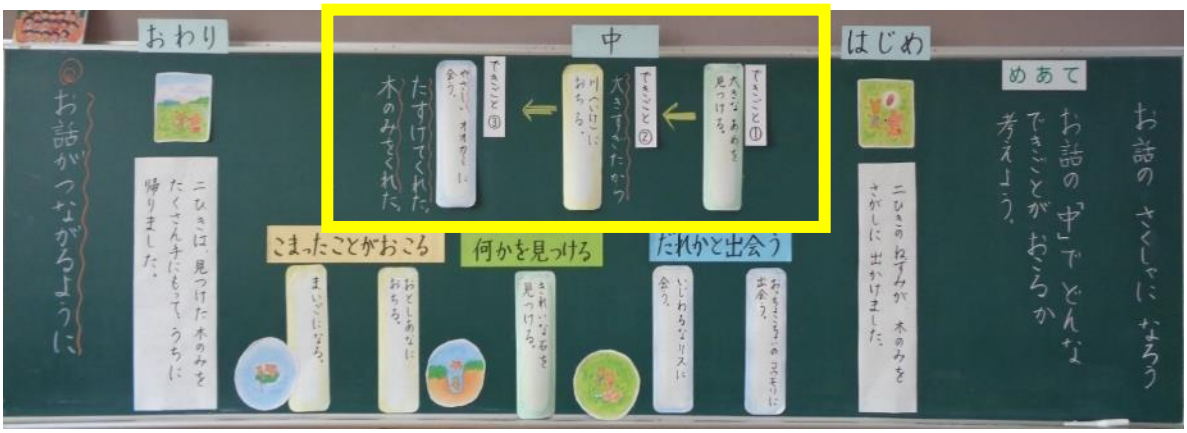
・キーワードカード　　・挿絵　　・語彙カード

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

キーワードや挿絵をヒントにして自由に出来事を考えさせ、短冊に書いて掲示していく。その中で、キーワードごとに１枚ずつ児童に選ばせる。

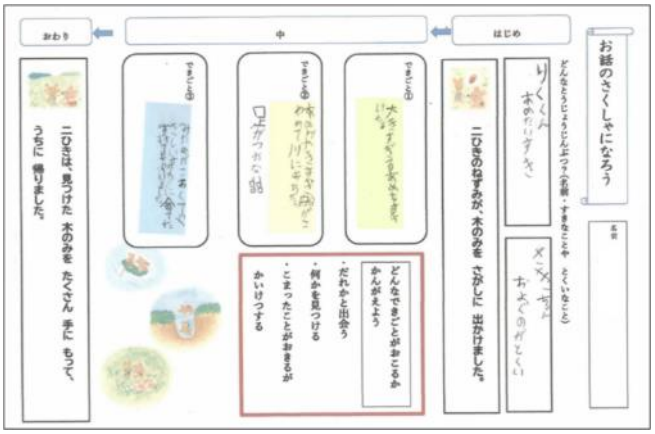


個人で考える前に、全体で短冊を並び替えながら物語を組み立てていく。その際、登場人物のキャラクターや見つけた物の特徴を引き出し、いかしながら話をつないでいく。



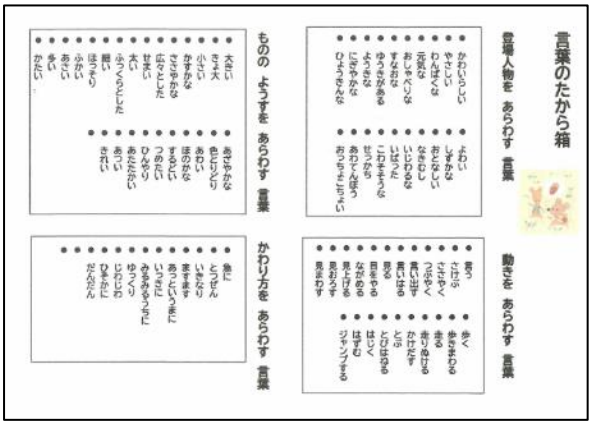
児童が使用する付箋を、キーワードカードと同じ色にしておき、どんな出来事を選んだか分かりやすくする。

【ワークシート】



登場人物を表す言葉やもののようすを表す言葉などを参考にできるようにする。

【語彙カード】



（別紙）　　第２学年　国語科学習指導略案

１　単元名　　お話のさくしゃになろう（光村図書）
２　本時の学習　（２／10）
①目標：絵を見て想像し、「中」でどんな出来事が起こるかを考える。【思・判・表】
②展開

学習活動	指導上の留意点（評価★）	備　考
１　本時のめあてを確かめる。	・「はじめ」と「終わり」の内容を確認する。 ・「中」での出来事を考えるというめあてを確かめる。	指導者用デジタル教科書 挿絵
お話の「中」で、どんなできごとがおこるか考えよう。		
２　お話の中でどんな出来事が起こるか考える。	・「どこかへ行く」「何かを見つける」「こまったことがおこる」などのキーワードや挿絵を提示し、出来事を考える手立てとする。 ・考えた出来事を発表させる際、「どんな〇〇？」と問い、登場人物の人物像や見つけた物の特徴を具体的に想像できるようにする。	キーワードの短冊 挿絵
（１）自由に考える。	・児童が発表した内容を短冊にして掲示し、その中から数枚選ばせて、話がつながるように並びかえたり、言葉を補ったりさせ、個人で考える際のモデルとする。 ・「どこかへ行く」「何かを見つける」「こまったことがおこる」などのキーワードごとに色分けをした付箋に書かせ、それぞれ必ず１つは入れるようにさせる。	付箋 ワークシート
（２）出来事を考え、付箋に書き、話がつながるように並べかえる。	・人物や出来事を表すときに、教科書巻末の「言葉の宝箱」や語彙カードを参考にするよう助言する。 ・できた「中」の出来事を交流させ、物語がつながっているかどうか互いにアドバイスさせる。 ・友だちから出た意見やアドバイスを取り入れて、並び替えたり、言葉を補ったりして修正させる。 ★物語がつながるように、「中」での出来事を書いている。（記述・発言）	語彙カード
３　本時の学習をふり返り、次時の見通しをもつ。	・自分が考えた物語をふり返らせることで、達成感をもたせる。 ・次時は、物語を詳しく書いていくことを知らせ、意欲づけとする。	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・算数科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年９月 13 日）

日本語能力	ステージ１
母語力	測定なし

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 16 日）

日本語能力	ステージ１
母語力	測定なし

2　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第４学年・10 歳
② 国籍及び母語：中国・中国語
③ 来日年齢及び在留期間：10 歳・１ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
　母国でも学校に通っており、基本的な学習は行っている。算数では、四則計算などの基本は身についている。母語で話す、聞く、書く、読む、は学年相当にできている。

3　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇算数：小数のわり算

4　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・乗法九九の範囲の（小数）÷（整数）の式を立て、計算することができる。
・全体、分ける、１人分、〇倍の意味を理解することができる。

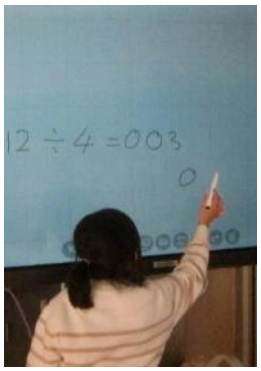
5　指導内容の概要（※別紙参照）

6　指導における工夫点・学習の成果
・３か国の児童が参加しているため、それぞれの母語に翻訳した教科書で、本時の内容を把握できるようにした。
・分ける、１人分などの重要な語句は、Google 翻訳などを使いながら意味を伝え、理解を支援した。
・言葉の意味理解は本時だけの学習では定着は難しかったが、計算のやり方は理解し、問題が解けるようになった。

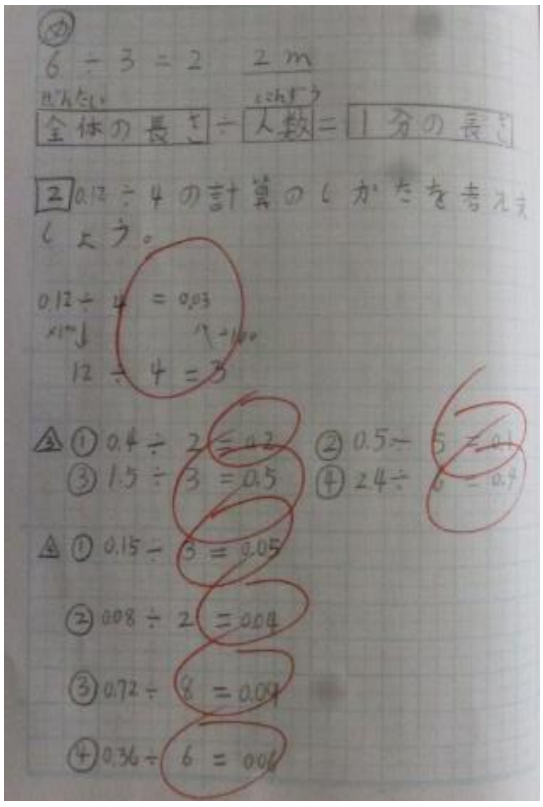
7　教材・教具（開発教材も含む）
Google 翻訳により母国語に翻訳した教科書

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

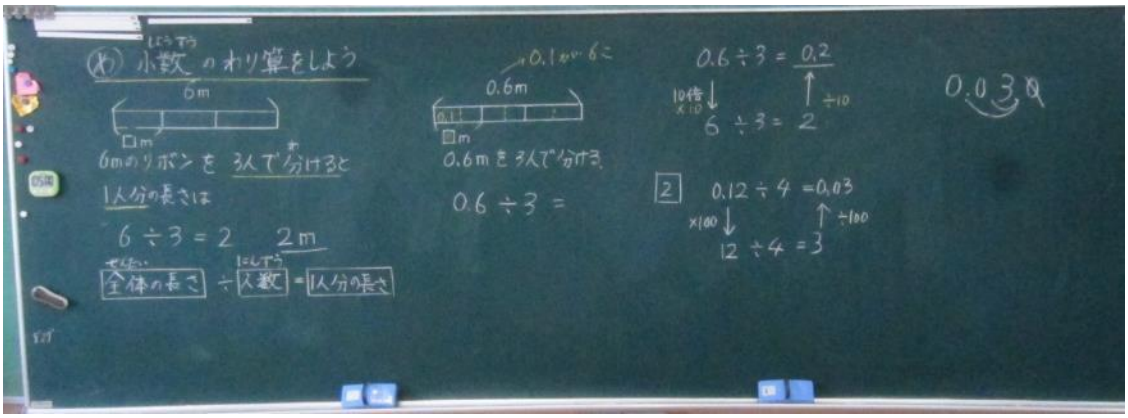
〇児童の学習の様子



〇児童のノート



〇板書



（別紙）　　第４学年　算数科学習指導略案

１　単元名　　小数のわり算（啓林館）
２　本時の学習　（６／16）
①目標：乗法九九の範囲の（小数）÷（整数）の式を立て、計算することができる。
②展開

学習活動	指導上の留意点（評価★）	備　考
１　問題場面を把握する。	・分ける、１人分、などの重要語句を確認する。 ・問題場面を把握し、整数の場合の計算を確認する。 ・全体の長さ÷人数で、１人分が求められることを押さえる。	翻訳版教科書
２　本時のめあてを確かめる。	小数のわり算をしよう。	
３　計算のやり方を考える。	・リボンが 0.6ｍになった場合の立式をする。 ・リボンが６ｍ時と同じように考えればよいことを示す。 ・問題の理解を支援するため、翻訳教科書のどこを参照すればよいかを伝える。 ・小数のかけ算の場合を想起させ、同じように整数にすればよいことを気付かせる。 ・〇倍、〇で割る、の言葉を確認しながら進める。	
４　類題に取り組む。	・0.12÷４の計算に取り組む。 ・100 倍すれば整数になることに気付かせる。	
５　練習問題に取り組む。	・個々のペースに合わせて解いていき、１問ごとに採点する。 ・多くの計算に取り組むことで、定着を図る。 ★解き方を理解し問題を解けている。（ノート） ・ある程度、問題が解けるようになった段階で、大型モニターに書かせて発表させることで、意欲を高める。	大型モニター
３　本時の学習をふり返り、学習内容を確認する。	・重要な語句をもう一度ふり返り、定着を図る。	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年４月 19 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	測定なし

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 14 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	測定なし

2　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第１学年・７歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・103 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・日常会話は、日本語でできる。
・一斉指導では、指示を聞くことが難しいときがある。
・音読は、たどたどしい。
・ひらがなを正しく書くことも難しい。

3　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：たぬきの糸車

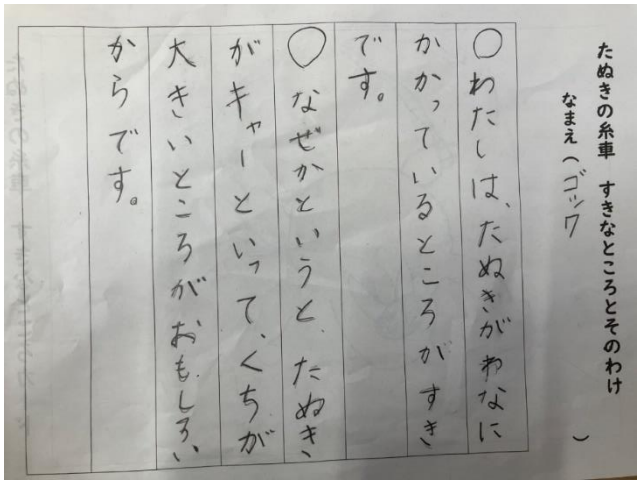
4　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

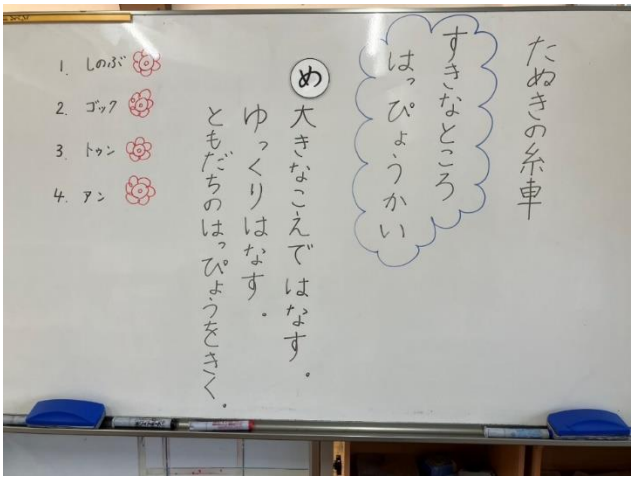
5　指導内容の概要（※別紙参照）
・すきなところをえらぶ。
・すきなところカードをつくる。
・グループで発表会をする。

6　指導における工夫点・学習の成果
・書き方の例を示すことは、書きやすいように効果的だった。
・相手の発表のどんなところがよかったのかを伝え合う時間を設けることで、今後感想を交流する学習の素地を育てる。

7　教材・教具（開発教材も含む）
・「たぬきの糸車」（光村図書　１年下）
・ワークシート

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）





（別紙）指導案

展開（第６時／全８時間）

学習活動	指導上の留意点	備考
１　本時のめあてをたしかめる。	・本時のめあてを確認し，学習に見通しをもたせる。	
すきなところを見つけて、そのわけを話し合おう。		
２　前文を音読し、すきなところを選ぶ。	・どこを選ぶか迷っている児童には、前時までに選んだすきなところの中から一緒に選んでいく。	
３　すきなところカードをつくる。	・「わたしがすきなところは～のところです。」「わけは～からです。」と話型を示す。	
４　グループで発表をする。	・声の大きさやスピード、友だちの発表の聞き方など、発表会の頑張る視点をもたせる。 ・一人ひとりの発表後、どんなところがよかったか意見交換する時間を設けることで、よさに気付くことができるようにする。	
５　本時の学習をふり返る。	・すきなところを見つけることができたか、みんなの発表の仕方はどうだったかをふり返らせる。	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・算数科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年４月 19 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	測定なし

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 14 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	ステージ４

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第３学年・９歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：９歳・２ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・日常の会話は日本語でできているが、意味が分かっていない様子の時もよくある。
・かけ算は６の段以降を覚えていないため時間がかかる。文章をゆっくり読むことはできるが、学習言語がわからないため母語サポーターの支援がまだ必要である。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇算数：あまりのあるわり算

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・商と余りの意味が分かる。
・「みんながすわる」「全部運ぶ」などの言葉から、余りの分を足して答えを出す意味がわかる。
・余りの処理において、１きゃく・１回・１日を足す理由を説明することができる。
・「～には、あまりの分をいれて、もう１〇いります。」の表現を使って説明することができる。

５　指導内容の概要
余りを切り上げて処理すればよいわけを考えたり説明したりする。

6　指導における工夫点・学習の成果

・問題文をスライドで具体物を提示してから、図（反具体物）に置き換えたのは分かりやすかった。

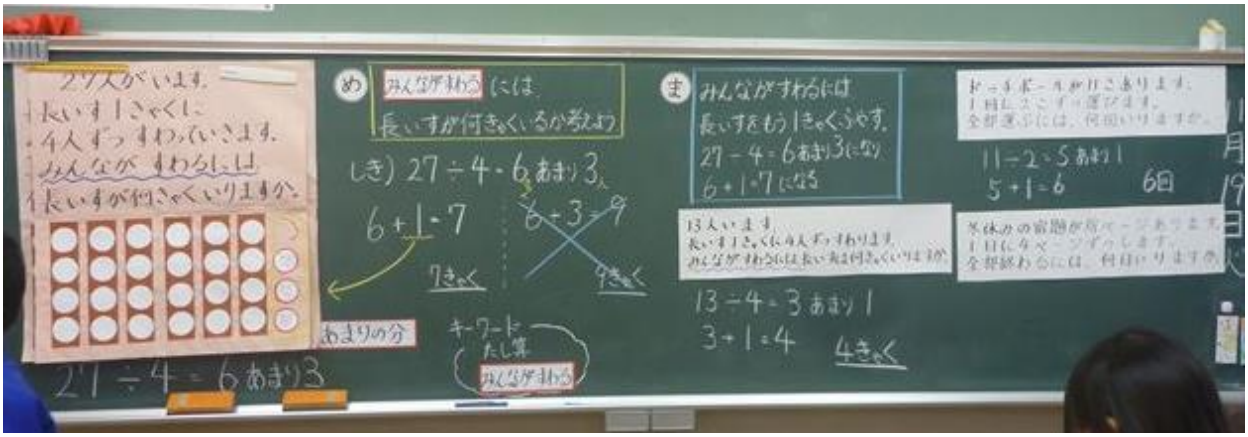
・ワークシートをヒント有りとヒント無しにし、児童が自分に合ったものを選択できるようにしていたのは児童の思考にあっていた。

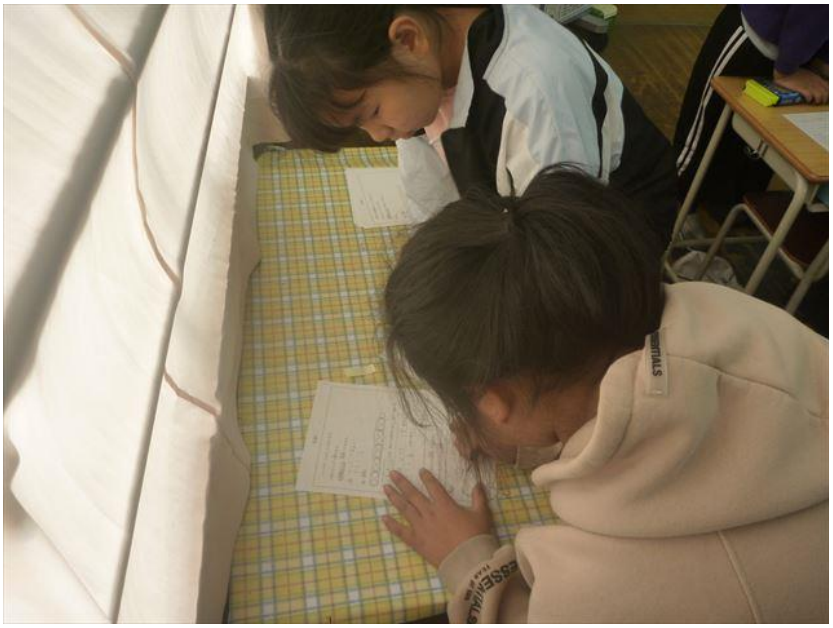
7　教材・教具（開発教材も含む）

・「あまりのある割り算」（啓林館　３年上）

・ワークシート

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）





（別紙）

展開（第６時／全８時間）

学　習　活　動	・指導上の留意点　◆評価	備　考
１　本時の課題をつかむ 27人います。長いすｌきゃくに４人ずつすわっていきます。みんながすわるには、長いすが何きゃくいりますか。 ・27÷４＝６あまり３	・前時の問題・図と本時の問題を順に掲示し、どこが違うのかを問い、前時までの問題との違い（問題文に余りを問う言葉がないこと）に気付かせる。（理） ・あまりと書いた掲示物を黒板に掲示したり、図の中に泣いている印をつけたりすることで、あまりをどうするのかを考える意識付けをする。（理）	・スライド ・掲示物 ・掲示物
みんながすわるには、長いすが何きゃくいるか考えよう。		
２　解決する ○個人思考 ○全体での話し合い ・27÷４＝６あまり３ ６＋１＝７ ７きゃく 13人います。長いすｌきゃくに４人ずつすわっていきます。みんながすわるには、長いすが何きゃくいりますか。 ・１３÷４＝３余り１ ３＋１＝４ ４きゃく	・自分の考えから図や言葉で説明をワークシートに記述する。図を使って説明させることで、あまりの分を足すことを具体的に捉えさせる。（理） ・数人に説明させた後、切り上げる問題の余りの処理の仕方を整理する。その際、問題を説明するための話型を作る。（理） （まとめ・話型） みんながすわるには、あまりの分をいれて、もうｌきゃくいる。だから、27÷４＝６あまり３になり、６＋１＝７になります。 ・練習問題を掲示し、話型に合わせて説明させることで、話型を使う練習をする。（表）	・ワークシート ・ヒントカード ・掲示物
３　ためす ・個人思考 ・ペア交流	・生活場面の問題（２問）を自分で選んで、問題を解き、説明を考える。話型ありとなしのワークシートを用意することで、自分に合ったものを選んで問題を考える。（表） ・友達に説明できたら、サインをもらうことで、進んで繰り返し説明できるようにする。（記） ・説明が難しい児童には、教員と対話することで図と説明・話型をつなげて、説明できるようにする。（表）	
４　ふり返る	・気付いたことやわかったことをワークシートにふり返り、車を作る問題を提示し、次時の活動への意欲をもたせる。	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【小学校・国語科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年４月 19 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	測定なし

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 14 日）

日本語能力	ステージ５
母語力	測定なし

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第５学年・11 歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・124 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・日常会話は問題なくできる。
・在籍学級で指示をよく聞いて行動できる。
・なかなか漢字を覚えられず、日本語を読んだり書いたりする際に困難を有する。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：言葉でスケッチ

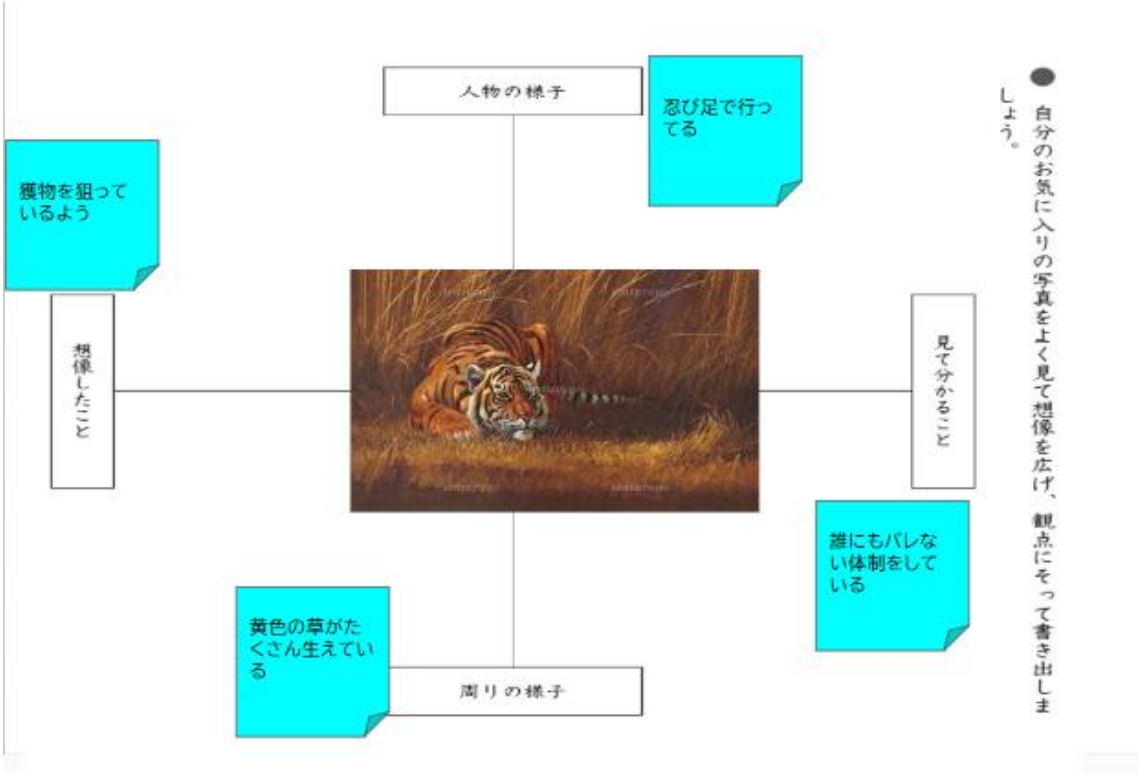
４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
写真をよく見ながら想像を広げたり様子を表したりする。

５　指導内容の概要
・情景を想像しながらスケッチをしてみる。
・お気に入りの写真を選ぶ。
・選んだ写真を見て、メモに書きだす。

６　指導における工夫点･学習の成果
はじめに教員が絵を一つ言葉で紹介し、実際にスケッチさせた。その際、良い見本と言葉が足りない見本の２つを用意することで、情景が伝わる表現の必要性に気付かせることができた。

７　教材・教具（開発教材も含む）
・「言葉でスケッチ」（光村図書　５年下）
・Google スライド

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



（別紙）指導案

展開（第１時／全２時間）

学習活動	指導上の留意点	備考
１　本時のめあてをたしかめる。	・単元の目標をもとに本時のめあてを設定する。	
写真をよく見て想像を広げ、観点にそってメモしよう。		
２　教員が見本の文章を聞いてスケッチしてみる。	・教員が予め良い見本と言葉が足りない見本の２つを用意しておく。２つの文章のどちらが良いか比較させることで、情景が伝わる表現の必要性に気付かせる。	
３　自分のお気に入りの写真を選び、観点に沿ってメモに書きだす。 ・人物のようす ・見てわかること ・周りのようす ・想像したこと	・なかなか書き出せない場合は、5WIHの観点で見てわかることを見つけられるよう声掛けをする。 ・見てわかることが書き出せた児童は、そこからどんなことが想像できるかを考えられるようにする。	Google スライド
４　本時の学習をふり返る。	・次時では、原稿用紙に文章にしていくことを確かめる。	

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年５月 23 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	ステージ１

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 10 日）

日本語能力	ステージ３
母語力	ステージ１

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第３学年・９歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：０歳・103 ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
・学習した言葉の意味は理解できているが、言い方が変わると意味が捉えられない。音読では言葉のまとまりをつかんで読めなかったり、語尾を適当に予想して読んだりする。学年相当の漢字の読み書きの定着は十分でなく、間違って覚えてしまっている漢字もある。
・簡単な文章問題は自分で解くことができるが、文章の内容が複雑になると、問われていることや内容を読み取ることができず、意味を説明するなどの支援が必要である。
・両親は日本語がほとんどできない。家庭内では簡単なベトナム語で話をしている。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇国語：漢字の広場「時を表す言葉を使おう」

４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・既習の漢字を使って文章を考える活動を通して、２年生までの漢字を読み書きすることができる。
・絵の中の出来事を、時を表す言葉を使って文にしたり、出来事の時にあった文末表現にしたりすることができる。
・進んで時を表す言葉を使って、身の回りの出来事を文にしようとしている。

５　指導内容の概要（※別紙参照）
・挿絵の出来事を、時を表す言葉、家族を表す言葉、動きを表す言葉など２年生で習った漢字を使って文を書くというめあてを知り、既習の漢字をふり返る。

・登場人物や時、出来事をつかみながら、時を表す言葉を使って文を考える。
・書いた文を自分で読み直したり、お互いに読み合ったりして、言葉の使い方や時に合った文末かを確認する。

6　指導における工夫点・学習の成果
・楽しい絵の中に、時を表す言葉、家族を表す言葉、動きを表す言葉などの漢字が配置されているため、絵で表された普段の出来事と言葉を容易に結びつけることができた。
・時を表す言葉を午前午後、曜日、日付、年など、家族を表す言葉を祖父母、叔父叔母などと関連付け、語彙を豊かに広げる学習となった。
・リード文を参考に、身近な出来事を友だちと話し合いながら文を考え、時によって文末が変わることや、日記を書くということに楽しく取り組むことができた。

7　教材・教具（開発教材も含む）
・出来事の掲示物（絵）
・ワークシート
・言葉のカード（時、家族、動詞など）

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

板書

できた文章を読んで
確かめる。

時を表す言葉を使って文を書く。

（別紙）

第３学年　国語科学習の指導の流れ

１　単元名　漢字の広場（時を表す言葉を使おう）

２　単元目標

・既習の漢字を書き、文の中で使うことができる。
・書いた文の間違いに気付いたり、出来事の時に合った文末になっているか確かめたりすることができる。
・進んで時を表す言葉を使って、身の回りの出来事を文にしようとしている。

３　単元の評価基準

・既習の漢字を書き、文の中で使っている。（知・技）
・「書くこと」において時に合わせた文末表現になっているか確かめ文を整えている。（思）
・進んで学習した漢字を確かめ、漢字を使った文を作ろうとしている。（態）

４　単元の指導計画（２時間）

第１・２時　「日曜日の出来事」の絵と漢字の言葉を結び付け、時を表す言葉を使って文を作る。普段の生活の中の出来事を考えながら、時を表す文末の書き方を確認したり、語彙を広げたりする。

５　本時の目標

絵を見て時を表す言葉を用いながら、２年生までに配当されている漢字を使った文を作ることができる。（知）（思）（態）

【日本語の目標】

・知っている漢字を思い出したり、新しい言葉を覚えたりして日本語の語彙を増やすことができる。
・時を表す言葉を使って、絵の中の出来事や、身の回りの出来事を文に表し、時に合わせた文末表現を理解することができる。

６　本時の展開

学習活動	指導上の留意点	備考
１　今日の個別の課題に取り組む。	○音読をしたり、日付カードを読んだりして個別の課題に取り組ませ、日々の学習内容の定着を図る。	

2　挿絵を見て時を表す言葉の意味を確かめ、本時の課題を知る。	○挿絵を見て気付いたことを発表し合い、何をしているか出来事を捉え、本時の課題を知らせる。	挿絵の掲示物
時を表す言葉を使って、文を書こう。		
（１）登場人物や絵の中のできごとをつかむ。	○挿絵の中の、時を表す言葉、家族を表す言葉、動きを表す言葉などについて、読み方や意味を一つ一つ確認しておく。	言葉カード
（２）挿絵の中の言葉の読み方を確かめ、本時の課題を知る。	○時を表す言葉に注目させ、例文を取り上げて説明し、挿絵の中の言葉や知っている時を表す言葉を使って文を書いていくことを知らせる。	
（３）みんなで相談しながら内容を考えたり、自分で文を作ったりする。	○挿絵の出来事を確認し、文型に言葉をあてはめて、みんなで文を作り、時制に合わせて文末の言い方が変わることにも気付かせる。人物の気持ちを書き加えると、物語の楽しさが広がっていくことを伝える。	文型掲示
	○自分で言葉をつないだり、文を考えたりすることが難しい児童には、声をかけて対話をしながら、文を一緒に考えるようにする。	
	○自分が書いた文に、時を表す言葉が入っているか、文末の時制は合っているか、確認しながら読み直すように伝える。	ワークシート
	○お互いに出来上がった文を、時を表す言葉に気をつけて音読し、定着を図る。	
★評価：時を表す言葉を、文の中で使っている。（記述）		
3　本時の学習のふり返りをする。	○今日の学習について感想を発表させ、４段階の評価カードから１枚選び、ふり返りとする。	評価カード

1　児童生徒の日本語習得状況

(1)　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年８月 30 日）

日本語能力	ステージ　1
母語力	測定なし

(2)　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 20 日）

日本語能力	ステージ　1
母語力	測定なし

2　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第１学年・６歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：６歳・１ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力

ベトナムの小学校１年生を終えて編入した。ベトナム語の読み書きは日本の１年生と同程度。夏休み中の編入だったため、先に渡日していた父や父の職場の人から少し日本語を教えてもらっていた。平仮名は少しずつ覚え、音と文字が一致するようになってきている。聞いた音をくりかえして言うのは得意である。

3　教科：単元名　（日本語指導：教材名）

〇日本語指導：「うえ」「した」

4　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

「上」「下」の意味が分かり、日常生活の様々な場面で使うことができる。

5　指導内容の概要（※別紙参照）

6　指導における工夫点･学習の成果

１年生は座学で集中できる時間が短い。そのため、トランプを用いて遊びながら習得できるようにした。ババ抜きゲームの最後の２枚のうち「上」を取るか「下」を取るかの選択をすることで、何度も「上」「下」を声に出して言い、楽しみながら定着させることができた。前日に学んだ「みぎ」「ひだり」「まん中」と合わせて、物の位置を表す言葉が使えるようになった。また、日本語指導教室は４階にあるので「上」、児童の在籍学級は２階にあるので「下」と表現し、学習場所を指定するときにも使えるようになった。

７　教材・教具（開発教材も含む）

・日本語学級①　（大蔵　守久　著　凡人社）

・トランプ１セット

８　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

　トランプゲーム(ババ抜き)をして、最後に残った２枚のどちらかを相手に取らせるという状況にし、「うえ？」「した？」と尋ねたり、答えたりすることを繰り返した。

　遊びながらの学習なので、喜んで声に出して何度も「上」「下」を言うことができていた。

　ゲームが終わっても、「もう一回！！」と何度もしたがり、「上」「下」を定着させることができた。

（別紙）

①目標

・「上」「下」の意味と日本語を覚える。

・「上」「下」を使って、ものの位置を伝えることができる。

②展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1　「うえ」「した」をベトナム語で言い、日本語で何というのか知る	Trên　うえ Dưới　した ・上を指さしながら「うえ」というベトナム語と日本語を交互に言うことで、意味と言葉を結び付ける。 ・下を指さしながら「した」というベトナム語と日本語を交互に言うことで、意味と言葉を結び付ける。	短冊 うえ した
2　トランプでババ抜きゲームをし、最後の２枚から「うえ」「した」を使って１枚を選ぶ	・最後の２枚は伏せて手の平の上に置き、上下どちらかを選ぶ状況を設定する。 ・「うえ？」「した？」と言って選ばせる。 ・初めは指もつけて上下を示すが、数回した後は言葉だけで選択させる。 ・正しく言えるようになるまで、何度か繰り返す。	・トランプ１セット
3　テキストの適応題をする	・「うえ」「した」を書き、文字でも定着させる。 ・適応題をし、色々な場で使えることを理解させる。	・日本語学級①のテキスト
4　在籍教室と日本語指導教室を「うえ」「した」と表現する	・児童の在籍教室は２階、日本語指導教室は４階であることから、在籍教室を「した」、日本語指導教室を「うえ」と位置付け、「日本語の勉強は『うえ』です」と伝える。今後もそれを使って話すようにする。	

日本語指導支援推進校事業　実践報告書　【中学校・数学科】P.４へ戻る

１　児童生徒の日本語習得状況

（１）　プレＤＬＡステージ＜話す＞（令和６年４月 20 日）

日本語能力	ステージ２
母語力	ステージ３

（２）　ポストＤＬＡステージ＜話す＞（令和７年１月 23 日）

日本語能力	ステージ４
母語力	ステージ４

２　児童・生徒の実態

① 学年及び年齢：第２学年・13 歳
② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
③ 来日年齢及び在留期間：12 歳・１年３ヶ月
④ 来日前の教科学習経験及び基本的学力
　学習に対する意欲が高く、来日前に、ひらなが・カタカナを学習していた。ベトナムでは、どの教科も平均以上の学力があった。

３　教科：単元名　（日本語指導：教材名）
〇数学：連立方程式の利用（個数と円）
※日本語指導：日本語を母語で理解する。

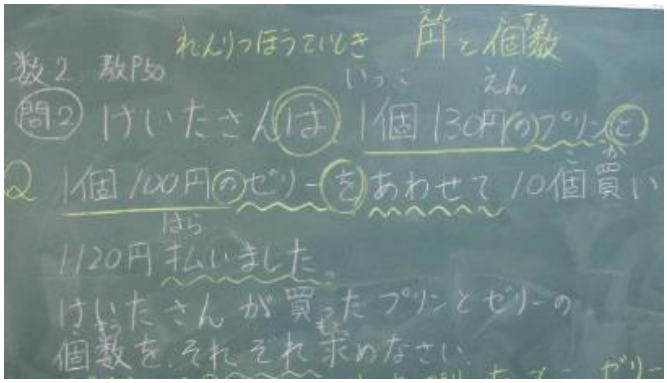
４　本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
・連立方程式の解き方を十分理解している。
・個数、円の意味や性質を理解している。

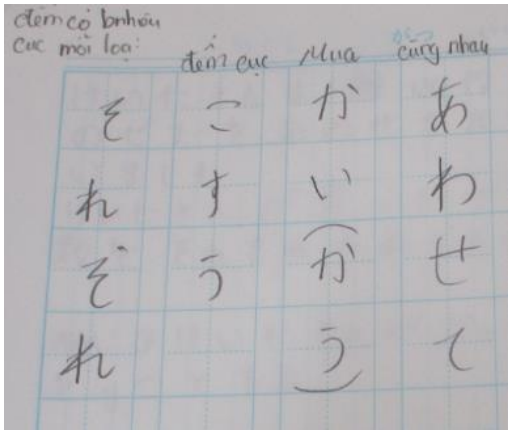
５　指導内容の概要（※別紙参照）

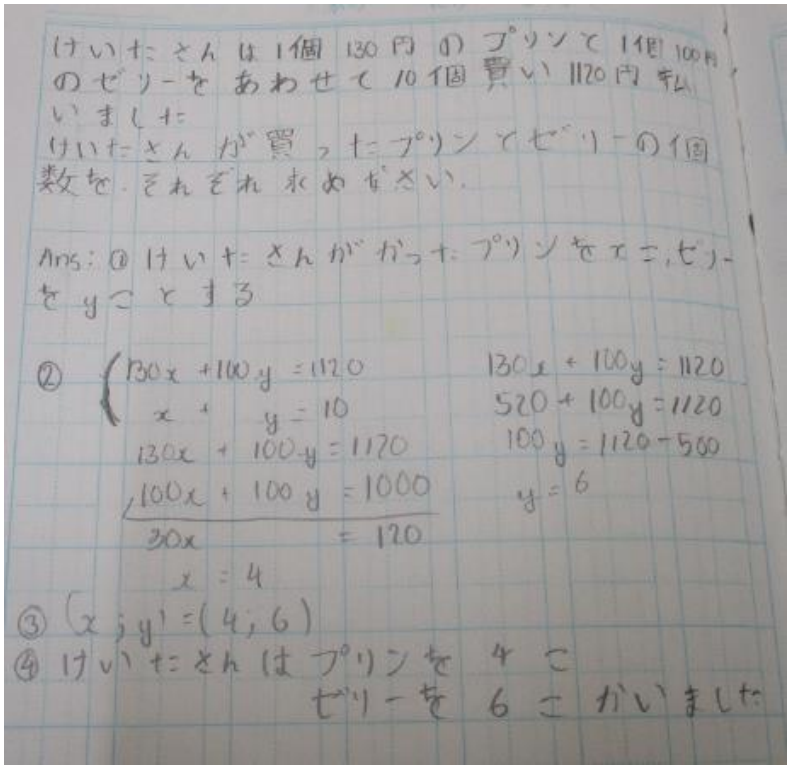
６　指導における工夫点・学習の成果
・分からない言葉や表現は、ひらがな・カタカナ・漢字でノートに記入し、言葉の意味をベトナム語で記入した。
・文章を読み、連立方程式を作成し、問題を解くことができた。

７　教材・教具（開発教材も含む）
・数学の教科書（啓林館）
・クロムブック（グーグル翻訳）

8　活動の様子（板書や児童生徒の写真等）







（別紙）

	授業の流れ	
	①黒板に書いている問題をノートに写す。 ②分からない言葉、表現に印をつける。 ③分からない言葉、表現について、ノートにまとめ、母語で意味を記入する。 ④分からない答えをｘ、ｙとする。 ⑤問題から連立方程式をつくる。 ⑥連立方程式を解く。 ⑦答えを文章で表す。	プリン ゼリー あわせて １個（いっこ） 100円（ひゃっこ） 払った（はらった）はらう それぞれ求めなさい（もとめなさい）もとめる

４　ＪＳＬ参照枠（全体）とＤＬＡ（４技能）の評価例

P.４へ戻る

文部科学省「外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメントＤＬＡ」より

ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	DLA＜話す＞						DLA≪読む＞					DLA＜書く＞						DLA＜聴く＞			支援の段階	日本語の学習段階
		話の内容とまとまり	文・段落の質＊	文法的正確度	語彙＊	発音・流暢度＊	話す態度	読解力	読書行動	音読行動＊	語彙・漢字＊	読書習慣・興味・態度	内容	構成＊	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール＊	書く態度	聴解力＊	聴解行動	語彙・表現		
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	□まとまった話が1人でできる □年齢相応の教科学習語彙が使える □発音が自然で、流暢度が大変高い						□文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める □年齢枠相応の語彙や漢字がよく理解できる					□まとまりのある作文が書ける □効果的な段落が作れる □表記上、正確度の高い文章が書ける						□教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる			支援付き自律学習段階	教科につながる学習段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	□ある程度まとまった話ができる □教科学習語彙がある程度使える □発音が自然で、流暢度が高い						□ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める □年齢枠相応の語彙や漢字がある程度理解できる					□ある程度まとまりのある作文が書ける □段落が作れる □表記上、誤用が少ない文章が書ける						□教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる				
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	□文を生成し、ある程度連文ができる □日常語彙が使える □発音が自然で、流暢度がある						□安定して文節や単語に区切って読める □1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる					□文と文をつなげて、流れのある作文が書ける □表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける						□身近な内容の話を聴いて大体理解できる			個別学習支援段階	
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	□単文レベルの応答ができる □身近な日常語彙が使える □流暢度が低い						□ゆっくりではあるがだいたい文節や単語に区切って読める □支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる					□テーマと関連がある複数の文が書ける □文字・表記上の誤用が多い						□ごく短い身近な内容の話を聴いて支援を得てある程度理解できる				初期の後期段階（一年以内）
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	□二語文 □基礎語彙が使える □流暢さなし						□文字習得が進む □身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる					□文を書こうとする □表記ルールをある程度理解して文を書こうとする						評価対象外			初期支援段階	
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	□一語文 □わずかな基礎語彙が使える □流暢さ無し						□文字習得が始まる □身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる					□いくつかの関連する単語を並べることができる □表記ルールについての理解が始まる										初期の前期段階（6か月以内）